

教員名	室城 隆之(T-0203)			履修開始年次	3年	単位※1	2単位			
年度	2020年度	科目名	司法・犯罪心理学/犯罪心理学							
学期※2	2020年度後期			学校区分	大学					
科目群	心2群			区分(授業形態)	週間授業					
副題										
授業の概要	最初に、犯罪の原因に関する生物学的、社会学的、心理学的諸理論について学習する。次に、犯罪者の捜査、司法手続き、処遇、立ち直りという一連のプロセスにおいて心理学が果たす役割と心理的支援、また、犯罪被害者への支援や犯罪の予防について学ぶ。さらに、家庭裁判所で扱われる家事事件とそれに対する心理的支援についても学ぶ。最後に、各種犯罪の特徴についても考察する。									
到達目標	この科目は、社会学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」というディプロマ・ポリシーに関連するとともに、人間心理学科の「心理学、臨床心理学、カウンセリング等に関する教育・研究を深め、専門知識と実践力を有し、真の人間を理解することができる」というディプロマ・ポリシーに関連する。 具体的な到達目標は、以下のとおりである。 (1) 犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識を身につける。 (2) 司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について学ぶ。									

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容							
第1回	司法・犯罪心理学とは何か～対象と方法、研究と倫理 予習:テキストを読み、犯罪心理学の対象と方法および倫理について調べておく(100分)。 復習:犯罪心理学の研究対象、方法、研究における倫理について説明できる(100分)。						
第2回	犯罪の原因(1) 生物学的要因 予習:テキストを読み、犯罪心理学の生物学的要因について調べておく(100分)。 復習:生物学的要因についての研究史、新しい生物学的理論について説明できる(100分)。						
第3回	犯罪の原因(2) 社会学的要因 予習:テキストを読み、犯罪心理学の社会学的要因について調べておく(100分)。 復習:社会学的要因について、3つの理論とその代表的な研究者およびその理論について説明できる(100分)。						
第4回	犯罪の原因(3) 心理学的要因、環境との相互作用、犯罪原因の統合的理解 予習:テキストを読み、犯罪心理学の心理学的要因について調べておく(100分)。 復習:心理学的要因について、代表的な研究者およびその理論について説明できる。犯罪原因の統合的理解モデルについて説明できる(100分)。						
第5回	犯罪捜査と心理学 予習:テキストを読み、犯罪者プロファイリング、虚偽検出、目撃証言について調べておく(100分)。 復習:犯罪者プロファイリングの歴史と方法、虚偽検出の方法、目撃証言に関する様々な実験について説明できる(100分)。						
第6回	非行・犯罪に対する司法手続き～アセスメントを中心に 予習:テキストを読み、非行・犯罪者に対するアセスメントについて調べておく(100分)。 復習:非行・犯罪者に対するアセスメントについて、司法プロセスの流れとともに説明できる(100分)。						
第7回	非行・犯罪者の処遇・矯正 予習:非行・犯罪者の処遇について調べておく(100分)。 復習:非行・犯罪者の処遇について、司法プロセスの流れとともに説明できる(100分)。						
第8回	家事事件と心理的支援 予習:家庭裁判所における家事事件について調べておく(100分)。 復習:家庭裁判所の家事事件における家庭裁判所調査官による心理的支援について説明できる(100分)。						
第9回	犯罪者の立ち直り 被害者支援と犯罪予防 予習:テキストを読み、犯罪からの立ち直りおよび犯罪の被害について調べておく(100分)。 復習:犯罪者に対する新しい処遇、犯罪者の立ち直りに関する諸理論、被害者支援の内容について説明できる(100分)。						
第10回	犯罪各論(1) 暴力犯罪、殺人 予習:参考書などで、暴力犯罪、殺人について調べておく(100分)。 復習:暴力犯罪の種類、暴力犯罪や殺人を起こす加害者の心理的特徴について説明できる(100分)。						
第11回	犯罪各論(2) 性犯罪、放火 予習:参考書などで、性犯罪、放火について調べておく(100分)。 復習:性犯罪、放火の種類と加害者の心理的特徴について説明できる(100分)。						

第12回	犯罪各論（3） 窃盗等の財産犯、その他の犯罪 予習:参考書などで、窃盗等の財産犯について調べておく(100分)。 復習:財産犯の種類と加害者の心理的特徴について説明できる(100分)。
第13回	犯罪各論（4） 少年非行 予習:少年非行について調べておく(100分)。 復習:代表的な少年非行と加害者の心理的特徴について説明できる(100分)。
第14回	まとめ～司法・犯罪心理学の課題 予習:司法・犯罪心理学の課題について調べ、自分の考えをまとめておく(100分)。 復習:これまでの講義内容を振り返る(100分)。

成績評価方法・基準	到達目標（1）「犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識を身につける」及び「（2）司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について学ぶ」について、毎回の講義終了時に提出するリアクション・ペーパー（45%）と定期試験（55%）を合計して評価する。
-----------	--

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『コンパクト犯罪心理学』	河野莊子・岡本英生	北大路書房	978-4762827921	
参考書	『犯罪心理学－犯罪の原因をどこに求めるのか』 大渕憲一 培風館 『Progress & Application 犯罪心理学』 越智啓太 サイエンス社			
その他				
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	家庭裁判所調査官として勤務。28年間、非行臨床（アセスメント、心理教育、カウンセリング）及び夫婦・家族臨床に従事。
学生を主体とする教育方法の実践	該当なし
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(2)/人間心理学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	室城 隆之(T-0203)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位			
年度	2020年度	科目名	心理的アセスメント/心理アセスメント							
学期※2	2020年度前期			学校区分	大学					
科目群	心2群			区分 (授業形態)	週間授業					
副題	「こころ」の様々な科学的評価方法を学ぶ。									
授業の概要	<p>様々な心理アセスメントの知識と方法を修得することを目的とする。具体的には</p> <ul style="list-style-type: none"> ①心理アセスメントの目的および倫理 ②心理アセスメントの観点および展開 ③心理アセスメントの方法 (種類、成り立ち、特徴、意義及び限界) ④適切な記録及び報告 <p>に関する知識を学ぶ。</p>									
到達目標	<p>この科目は、社会学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」というディプロマ・ポリシーに関連するとともに、人間心理学科の「心理学及びカウンセリングの手法の修得ができる」「心理学、臨床心理学、カウンセリング等に関する教育・研究を深め、専門知識と実践力を有し、眞の人間を理解することができる」というディプロマ・ポリシーに関連する。</p> <p>具体的な到達目標としては、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①心理アセスメントの目的および倫理について理解している。 ②心理アセスメントの観点および展開について修得している。 ③心理アセスメントの方法 (種類、成り立ち、特徴、意義及び限界) についての知識と方法を修得している。 ④適切な記録及び報告について修得している。 									

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容

第1回	心理アセスメントの歴史、定義、目的および倫理 予習:心理アセスメントとは何かについて調べておく(100分)。 復習:心理アセスメントの定義、目的および倫理について説明できる(100分)。
第2回	心理アセスメントの方法 (面接法、観察法、心理検査法) 面接によるアセスメント 予習:心理アセスメントの方法について調べておく(100分)。 復習:心理アセスメントの方法としての面接法、検査法、心理検査法について説明できる(100分)。
第3回	トリアージ 知的障害・発達障害のアセスメント 予習:心理アセスメントにおけるトリアージとは何かについて調べておく(100分)。 復習:心理アセスメントのトリアージおよび知的障害・発達障害のアセスメントについて説明できる(100分)。
第4回	精神医学的アセスメント 予習:精神医学的アセスメントとは何かについて調べておく(100分)。 復習:精神医学的な症状とアセスメントの方法について説明できる(100分)。
第5回	発達とパーソナリティのアセスメント 予習:発達およびパーソナリティに関する理論について調べておく(100分)。 復習:発達とパーソナリティ心理アセスメントに関する諸理論と方法について説明できる(100分)。
第6回	心理療法のためのアセスメント総論 予習:心理療法とは何かについて調べておく(100分)。 復習:心理療法における心理アセスメントの必要性について説明できる(100分)。
第7回	精神力動的 (精神分析的) 心理療法のアセスメント 予習:精神力動的 (精神分析的) 心理療法とは何かについて調べておく(100分)。 復習:精神力動的 (精神分析的) 心理療法における心理アセスメントの方法について説明できる(100分)。
第8回	認知行動療法のアセスメント 予習:認知行動療法とは何かについて調べておく(100分)。 復習:認知行動療法における心理アセスメントの方法について説明できる(100分)。
第9回	人間性心理学的心理療法 (主として交流分析) のアセスメント 家族療法・集団療法のアセスメント 予習:人間性心理学的心理療法、家族療法、集団療法とは何かについて調べておく(100分)。 復習:人間性心理学的心理療法、家族療法、集団療法における心理アセスメントの方法について説明できる(100分)。
第10回	心理検査によるアセスメント総論 (心理検査の歴史、目的、種類、テストバッテリー、信頼性と妥当性) 予習:心理検査とは何かについて調べておく(100分)。 復習:心理検査の種類、目的、テストバッテリー、信頼性と妥当性について説明できる(100分)。
第11回	知能検査、発達検査、認知機能検査、神経心理学検査

	予習:知能検査、発達検査について調べておく(100分)。 復習:知能検査、発達検査の種類、認知機能検査、神経心理学検査について説明できる(100分)。
第12回	質問紙法 (特徴と種類) 予習:質問紙法とは何かについて調べておく(100分)。 復習:心理検査に用いる質問紙の種類、実施方法について説明できる(100分)。
第13回	投映法 (特徴と種類) 予習:投映法とは何かについて調べておく(100分)。 復習:投映法の種類、実施方法について説明できる(100分)。
第14回	心理アセスメントの記録と報告 予習:心理アセスメントの記録と報告について調べておく(100分)。 復習:心理アセスメントの記録と報告の方法について説明できる(100分)。

成績評価方法・基準	心理アセスメントの目的および倫理、心理アセスメントの観点および展開、心理アセスメントの方法（種類、成り立ち、特徴、意義及び限界）、適切な記録及び報告についての基礎的な知識と実践方法の理解度を毎回実施するアクション・ペーパー（45%）および最終レポート（55%）によって評価する。
-----------	---

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『臨床心理アセスメントの基礎』	沼 初枝	ナカニシヤ出版	978-4779504037	
参考書	『心理のための精神医学概論』 沼 初枝 ナカニシヤ出版 2014 978-4779508950 『精神科臨床における心理アセスメント入門』 津川 律子 金剛出版 2009 978-4772410793 『ガイダンスとカウンセリング』 小谷 英文 北樹出版 1993 978-4893842930			
その他				
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	家庭裁判所調査官として勤務。28年間、非行臨床（アセスメント、心理教育、カウンセリング）及び夫婦・家族臨床に従事
学生を主体とする教育方法の実践	該当なし
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(2)/人間心理学科(1)/人間心理学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	室城 隆之(T-0203)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位			
年度	2020年度			科目名	カウンセリング概論					
学期※2	2020年度前期			学校区分	大学					
科目群	心2群			区分(授業形態)	週間授業					
副題	カウンセラーとクライエントの交流の場としてのカウンセリングを学ぶ									
授業の概要	この科目は、臨床心理学の実践としてのカウンセリングについて、その基礎となる諸理論を体系的に学ぶことを目的とする。また、カウンセリング理論の1つである交流分析理論について詳細に学ぶことによって、理論を実際に活用することができるようになることを目標とする。パワーポイントを用いた講義が中心となるが、演習を用いた体験的な学習や、リアクションペーパーを用いた双方向的な学習ができるようにする。なお、毎回の講義開始時に資料を配布する。									
到達目標	この科目は、社会学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」というディプロマ・ポリシーに関連とともに、人間心理学科のディプロマポリシーである「心理学及びカウンセリングの手法の修得ができる。」および「心理学、臨床心理学、カウンセリング等に関しての教育・研究を深め、専門知識と実践力を有し、真の人間を理解することができる。」に関連しており、以下を到達目標とする。 1. カウンセリングの構造、理論を概説できる。 2. カウンセリングの理論の1つである交流分析の理論および技法について概説し、活用できる。									

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容							
第1回	カウンセリングとは何か 予習:カウンセリングとは何かについて調べ、自分の見解を持つ。(100分) 復習:配布資料を復習し、カウンセリングの定義、目標、特徴、カウンセリングのものの見方を説明できる。(100分)						
第2回	カウンセリングの構造と基本的な技法 予習:カウンセリングの構造と基本的な技法について調べておく。(100分) 復習:配布資料を復習し、カウンセリングの構造、基本的な技法を説明できるようにする。(100分)						
第3回	カウンセリングのプロセスと技法(1) カウンセリングのプロセスと面接初期の技法 予習:カウンセリングの流れ(プロセス)と技法について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、カウンセリングのプロセス、技法を説明できるようにする。(100分)						
第4回	カウンセリングのプロセスと技法(2) カウンセリングのプロセスと面接中期・後期の技法 予習:カウンセリングの中期・後期の技法について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、カウンセリングの中期・後期の技法を説明できるようにする。(100分)						
第5回	精神分析療法のカウンセリング 予習:精神分析療法について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、精神分析療法と精神分析療法のカウンセリングの違いを説明できるようにする。(100分)						
第6回	認知・行動療法のカウンセリング 予習:認知・行動療法について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、認知・行動療法のカウンセリングの特徴、技法について説明できるようにする。(100分)						
第7回	人間性心理学のカウンセリング 予習:人間性心理学(ヒューマニスティック・アプローチ)について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、人間性心理学のカウンセリングの特徴、種類を説明できるようにする。(100分)						
第8回	集団療法・家族療法のカウンセリング 予習:集団療法・家族療法について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、集団療法・家族療法のカウンセリングの特徴、技法を説明できるようにする。(100分)						
第9回	交流分析(1) 自我状態 予習:テキストを読み、交流分析と自我状態について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、交流分析、自我状態について説明できるようにする。(100分)						
第10回	交流分析(2) やりとり分析 予習:テキストを読み、やりとり分析について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、様々なやり取りについて説明できるようにする。(100分)						
第11回	交流分析(3) 脚本分析 予習:テキストを読み、脚本分析について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、脚本とは何か、どのように形成されるかについて説明できるようにする。(100分)						

第12回	交流分析(4) 脚本化された行動(ラケットとゲーム) 予習:テキストを読み、脚本化された行動について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、ラケットとゲームについて説明できるようにする。(100分)
第13回	ゲシュタルト療法 予習:テキストを読み、ゲシュタルト療法について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、ゲシュタルト療法の特徴、技法について説明できるようにする。(100分)
第14回	再決断療法 予習:テキストを読み、再決断療法について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、再決断療法の特徴、技法について説明できるようにする。(100分)

成績評価方法・基準	カウンセリングの構造、理論および交流分析の理論および技法の理解度を問うための、毎回の講義終了時に提出するリアクションペーパー（45%）およびカウンセリングの構造、理論の理解度および交流分析の理論および技法を活用できるかを問う最終レポート（55%）によって評価する。リアクションペーパーについては、毎回、次の講義の際に講評する。
-----------	---

	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	「生きづらさを手放す」－自分らしさを取り戻す再決断	室城隆之	春秋社	978-4-393-36551-9	
参考書	「はじめてのカウンセリング入門(上)」－カウンセリングとは何か 諸富祥彦著 誠信書房 978-4-414-40368-8 「はじめてのカウンセリング入門(下)」－ほんものの傾聴を学ぶ 諸富祥彦著 誠信書房 978-4-414-40369-5				
その他	本科目は公認心理師の受験資格にはなっていないが、公認心理師を目指す学生は受講することを推奨する。				
参考URL					

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	家庭裁判所調査官として勤務。28年間、非行臨床（アセスメント、心理教育、カウンセリング）及び夫婦・家族臨床に従事。
学生を主体とする教育方法の実践	グループワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(2)/人間心理学科(1)/人間心理学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	薗 理津子(T-0204)、室城 隆之(T-0203)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位			
年度	2020年度	科目名	感情・人格心理学							
学期※2	2020年度前期			学校区分	大学					
科目群	心3群			区分(授業形態)	週間授業					
副題										
授業の概要	公認心理師の受験資格を得るために必要となる科目の1つである。感情と人格に関する理論等の基礎的知識を習得する。									
到達目標	<p>この科目は人間心理学科の「心理学、臨床心理学、カウンセリング、身体表現等に関しての教育・研究を深め、専門知識と実践力を有し、眞の人間を理解することができる。」というディプロマ・ポリシーに関連しており、以下4点を目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感情に関する理論及び感情喚起の機序について概説できる。 ・感情が行動に及ぼす影響について概説できる。 ・人格の概念及び形成過程について概説できる。 ・人格の類型、特性等について概説できる。 									

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容							
第1回	ガイダンス、感情の基礎 予習: 感情とは何かについて調べておく。(100分) 復習: 感情とは何かについて説明できる。(100分)						
第2回	感情の生物学的基礎 予習: 感情の神経生物学的理論、感情と関連する脳部位について調べておく。(100分) 復習: 感情の古典的理論(抹消起源説、中枢起源説)、感情の神経生物学的理論、感情に関連する脳部位について説明できる。(100分)						
第3回	感情の理論 予習: 神経生物学的理論以外の感情に関する理論について調べておく。(100分) 復習: 情動2要因説、認知的評価理論、社会構成主義、基本感情論、次元論、心理構成主義について説明できる。(100分)						
第4回	感情と認知、行動 予習: 感情と認知、行動をキーワードとして、書籍などを調べておく。(100分) 復習: 気分一致効果など感情によって影響を受ける認知および行動について説明できる。(100分)						
第5回	感情の発達・感情の個人差 予習: 感情の発達、個人差をキーワードとして、書籍などを読んでおく。(100分) 復習: 感情の発達に関する理論、感情の理解・制御の発達について説明できる。感情の個人差がなぜ生じるのかを説明できる。(100分)						
第6回	感情と心身の健康 予習: 感情と健康をキーワードとして、書籍などを読んでおく。(100分) 復習: 拡張形成理論、ストレスに対する反応と対処、感情制御の方法を説明できる。(100分)						
第7回	感情心理学に関するまとめと試験 予習: 第1回目から第6回目までの内容を振り返り、理解しておく。(100分) 復習: 試験の内容を踏まえて、講義の内容を復習する。(100分)						
第8回	人格とは何か(人格の概念) 予習: 人格とは何かについて調べておく。(100分) 復習: 人格の定義、性格との違い、気質や遺伝との関係について説明できる。(100分)						
第9回	人格の理論-類型論、特性論、構造論 予習: 人格の類型論、特性論、構造論について調べておく。(100分) 復習: 人格の類型論、特性論、構造論について特徴と違いを説明できる。(100分)						
第10回	人格はどのように作られるか(人格の形成過程) 予習: 人格がどのように形成されるかについて調べておく。(100分) 復習: 各発達段階におけるパーソナリティの発達について説明できる。(100分)						
第11回	人格の測定と理解 予習: 人格の測定の方法について調べておく。(100分) 復習: 代表的な人格検査、質問紙法、投映法について説明できる。(100分)						
第12回	パーソナリティの障害 予習: パーソナリティ障害について調べておく。(100分) 復習: 人格の正常と異常、パーソナリティ障害の種類と特徴について説明できる。(100分)						
第13回	パーソナリティスタイルと人格適応論 予習: 面接による人格の理解の方法について調べておく。(100分)						

	復習：パーソナリティスタイル理論および人格適応論について説明できる。（100分）
第14回	人格心理学に関するまとめと試験 予習：これまでの講義の内容について振り返って、理解しておく。（100分） 復習：試験の結果を踏まえて、講義の内容を復習する。（100分）

成績評価方法・基準	前半の感情心理学に関しては、リアクションペーパーの提出による学習意欲20%、感情に関する理論及び感情喚起の機序、感情が行動に及ぼす影響についての理解を問うテスト（第7回に実施）30%で評価する。 後半の人格心理学に関しては、リアクションペーパーの提出による学習意欲リアクションペーパー20%と人格の概念、形成過程、人格に関する理論（類型、特性、構造）、人格の測定、人格の障害についての理解を問うテスト（第14回に実施）30%で評価する。
-----------	---

参考書	今田純雄・中村真・古満伊里（2018）感情心理学—感情研究の基礎とその展開 培風館 近藤 卓（2004）パーソナリティと心理学—コミュニケーションを深めるために 大修館書店
その他	
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	室城教授が担当する第8～14回で実務経験を活用する。 家庭裁判所調査官として勤務。28年間、非行臨床（アセスメント、心理教育、カウンセリング）及び夫婦・家族臨床に従事。
学生を主体とする教育方法の実践	該当なし
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(2)/人間心理学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	室城 隆之(T-0203)、倉田 由美子(T-1004)、尾花 真梨子(D-0802)、堀内 美穂子(D-0104)、山本 隆一郎(D-0205)			履修開始年次	3年	単位※1	2単位			
年度	2020年度	科目名	心理学的支援法/心理療法							
学期※2	2020年度前期			学校区分	大学					
科目群	心3群			区分(授業形態)	週間授業					
副題	心理学的支援の様々なアプローチを学ぶ									
授業の概要	<p>心理学的支援の様々なアプローチを学ぶことを目的として、それぞれのアプローチを専門とする教員のオムニバス形式の講義を行う。</p> <p>具体的には、以下のような専門的知識を学ぶ。</p> <p>(1)代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界 (2)訪問による支援や地域支援の意義 (3)良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法 (4)プライバシーへの配慮 (5)心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援 (6)心の健康教育</p>									
到達目標	<p>社会学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」というディプロマ・ポリシーに関連するとともに、人間心理学科の「心理学及びカウンセリングの手法の修得ができる」「心理学、臨床心理学、カウンセリング等に関する教育・研究を深め、専門知識と実践力を有し、眞の人間を理解することができる」というディプロマ・ポリシーに関連する。</p> <p>具体的な到達目標としては、以下のとおりである。</p> <p>(1)代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界について理解している。 (2)訪問による支援や地域支援の意義について理解している。 (3)良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法について理解している。 (4)プライバシーへの配慮について理解している。 (5)心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援について理解している。 (6)心の健康教育について理解している。</p>									

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容

第1回	心理学的支援と歴史的概観 心理学的支援における倫理とプライバシーへの配慮 担当:室城隆之 予習:心理学的支援の歴史と倫理について調べておく。(100分) 復習:心理学的支援の歴史および心理学的支援における倫理とプライバシーへの配慮について説明できる。(100分)
第2回	良好的な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法 担当:山本隆一郎 予習:「かかわり行動」や「基本的傾聴」について調べておく(100分)。 復習:授業内容を振り返り、「かかわり行動」や「基本的傾聴」、心理学的支援におけるこれらの意義について説明できる(100分)。
第3回	精神分析・精神力動的心理療法 担当:室城隆之 予習:精神分析について調べておく。(100分) 復習:精神分析と精神力動的心理療法の違い、精神力動的心理療法の特徴について説明できる。(100分)
第4回	行動療法と行動分析 担当:倉田由美子 予習:「學習理論(行動理論)」とは何か調べておく。(100分) 復習:授業内容を振り返り、行動療法の概要(人物、主要な技法)を説明できる(100分)。
第5回	認知療法・認知行動療法 担当:倉田由美子 予習:「自動思考」「ソクラテス問答」「不合理な信念」について調べておく(100分)。 復習:授業内容を振り返り、認知行動療法の概要(人物、主要な技法)を説明できる(100分)。
第6回	パーソンセンタード・アプローチ、ヒューマニスティック・アプローチ 担当:室城隆之 予習:ロジャースの来談者中心療法について調べておく。(100分) 復習:ロジャースの来談者中心療法とパーソンセンタード・アプローチへの発展、その他のヒューマニスティック・アプローチの特徴について説明できる。(100分)
第7回	集団療法・家族療法 担当:室城隆之 予習:集団療法および家族療法について調べておく。(100分) 復習:集団療法の特徴と技法、家族療法の特徴と技法について説明できる。(100分)
第8回	子どもの心理療法(プレイセラピー、描画、箱庭) 担当:尾花真梨子

	予習：子どもを対象とした心理療法について調べておく（100分）。 復習：授業内容を振り返り、「プレイセラピー」「箱庭療法」「描画療法」について説明できる（100分）。
第9回	カウンセリング・発達支援 担当:尾花真梨子 予習：障害児・者および家族に対する支援について調べておく（100分）。 復習：授業内容を振り返り、「発達相談」「ペアレン特・トレーニング」について説明できる（100分）。
第10回	森田療法、動作法、芸術療法、その他のアプローチ 担当:倉田由美子 予習：芸術療法にはどのようなものがあるか調べておく（100分）。 復習：授業内容を振り返り、日本の心理療法、芸術療法の概要を説明できる（100分）。
第11回	心理学的支援の選択と効果 担当:山本隆一郎 予習：エビデンスレベルやコクラン（コクラン共同計画）について調べておく（100分）。 復習：授業内容を振り返り、実証に基づく支援とそれにに基づく心理学的支援の選択について説明できる（100分）。
第12回	訪問支援、地域支援 担当:堀内美穂子 予習：アウトリーチ、リエゾン、コンサルテーション、地域包括ケアとは何か、各用語の意味と内容について調べておく（100分）。 復習：授業内容を振り返り、訪問支援や地域支援において、どのような領域でどういった職種により連携が図られるか、またその意義について説明できるようにする（100分）。
第13回	コミュニティ・アプローチと支援者支援 担当:堀内美穂子 予習：コミュニティ・アプローチとは何か。定義と発展の歴史的経緯について調べておく（100分）。 復習：授業内容を振り返り、コミュニティアプローチが担う役割と支援の対象、心理専門職のアプローチの手法と介入レベルについて説明できるようになる（100分）。
第14回	心の健康教育、ストレスと心の健康への支援 担当:山本隆一郎 予習：心理教育の目的と対象について調べておく（100分）。 復習：授業内容を振り返り、心理療法の目的と対象、ストレスマネジメント教育について実例を踏まえて説明できる（100分）。

成績評価方法・基準	代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界、訪問による支援や地域支援の意義、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、プライバシーへの配慮、心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、心の健康教育についての理解度をみるために、毎回の講義で実施する小テストの合計点で100%評価する。
-----------	---

参考書	公認心理師標準テキスト心理学的支援法 杉原保史ほか 北大路書房
その他	
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	室城隆之 1,3,6,7回担当 家庭裁判所調査官として勤務。28年間、非行臨床（アセスメント、心理教育、カウンセリング）及び夫婦・家族臨床に従事 堀内美穂子 12,13回担当 産能大学メンタルマネジメント相談室においてインターー業務に従事したのち、千葉県に精神保健福祉相談員として入庁。県内保健所、精神保健福祉センター等に勤務
学生を主体とする教育方法の実践	グループワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(2)／人間心理学科(1)／人間心理学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	堀内 美穂子(D-0104)			履修開始年次	1年	単位※1	2単位				
年度	2020年度	科目名	精神保健								
学期※2	2020年度前期		学校区分	大学							
科目群	心2群		区分 (授業形態)	週間授業							
副題											
授業の概要	精神保健の基本的視点や基礎知識を学び、精神保健の意義・課題を考える。また、ライフサイクルの各段階で生じる精神保健の課題を知り、その対応に必要な各種専門機関や支援機関の役割と多職種による連携支援についても概説する。この科目的学びは、社会学部の「現代の社会における諸課題の解決をはかりながら、持続可能な社会の構築に貢献できる」「優しさと温かみに満ち、総合的な判断能力をもつことができる」、人間心理学科の「心理学、臨床心理学、カウンセリング等に関する教育・研究を含め専門知識と実践力を有し、真の人間を理解することができる」とのディプロマ・ポリシーに基づく。										
到達目標	1. 精神の健康についての基本的考え方と歴史的変換を理解する 2. 現代社会におけるライフサイクルに応じた精神保健の諸課題と、地域の現状について理解する 3. 精神保健の維持・増進のために機能している専門機関と関係職種の活動と多職種の連携について理解し、その知識を活用することで、自らの健康を守り、必要に応じ周囲の人々を支援することができる										

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容							
第1回	オリエンテーション：精神保健とは何か。精神保健の歴史と課題 予習：「精神保健」とは何か、各自下調べを行う(100分) 復習：精神の健康について基本的考え方を説明できる (100分)						
第2回	ライフサイクルからみた精神保健（1）エリクソンの発達課題（出生前、乳幼児期、学童期） 予習：エリクソンのライフサイクルと各段階の課題について調べ、ノートにまとめておく (100分) 復習：出生前から学童期に生じる精神保健の課題とその支援の現状を説明できる(100分)						
第3回	ライフサイクルからみた精神保健（2）エリクソンの発達課題（思春期、青年期、成人期、老年期） 予習：思春期や青年期に生じる精神保健的課題について考え、ノートにまとめておく(100分) 復習：思春期や青年期に生じる精神保健の課題と成人期、老年期の課題の概要とその特徴をできる (100分)						
第4回	各種健康障害と精神保健 予習：人々が生涯において罹患し、心の健康に影響をあたえる疾患について調べてノートにまとめておく (100分) 復習：各種疾患により生じる精神保健の課題と支援の現状について説明できる (100分)						
第5回	精神の健康と支援 予習：精神の健康とは何か、定義について調べてノートにまとめておく(100分) 復習：精神の健康について、国際的な視点による定義とその実践について説明できる(100分)						
第6回	精神保健における家族アプローチ 予習：精神の健康の保持・増進における家族の役割について考え、ノートにまとめておく (100分) 復習：精神保健活動において、家族支援や家族教育がなぜ重要視されるのか、説明できる (100分)						
第7回	学校精神保健 予習：就学期において生じる精神保健の課題を3個考え、その概略を調べノートにまとめておく (100分) 復習：就学期において生じる精神保健の課題とその支援体制について説明できる (100分)						
第8回	青年期精神保健 予習：青年期において生じる精神保健の課題を 3 個考え、その概略を調べ、ノートにまとめておく (100分) 復習：青年期において生じる精神保健の課題とその支援体制について説明できる(100分)						
第9回	成人期・老年期精神保健 予習：成人期から老年期において生じる精神保健の課題を 3 個考え、その概略を調べ、ノートにまとめておく (100分) 復習：成人期から老年期において生じる精神保健の課題とその支援体制について説明できる(100分)						
第10回	障害者の社会参加と精神保健 予習：障害者福祉の視点から、3つの障害種別とは何か調べ、ノートにまとめておくおく (100分) 復習：障害者の社会参加や障害者就労の現状と課題について説明できる (100分)						
第11回	アルコールを含む薬物依存をめぐる精神保健の課題 予習：アディクションとは何か調べておく(100分) 復習：アディクション問題に関する社会的課題について説明できる(100分)						
第12回	自殺予防対策と地域精神保健 予習：日本における自殺者の数と動向について調べ、ノートにまとめておく (100分) 復習：日本における自殺予防対策と課題について説明できる(100分)						
第13回	認知症疾患とターミナルケア						

	予習：認知症疾患の内容とその疾患の特徴を調べておく（100分） 復習：認知症やターミナルケアにおける支援の在り方について、自らの考え方を説明できる（100分）
第14回	災害時精神保健と地域づくり 予習：近年の災害発生と地域住民の活動について考え、ノートにまとめておく（100分） 復習：災害時に生じる精神保健的課題とケアについて、自らの考えを説明できる（100分）

成績評価方法・基準	不定期に実施するリアクションペーパー（30%），定期試験（70%）により評価する。 リアクションペーパーには、学習内容の理解度を評価する小テスト問題を含む。
-----------	---

参考書	新・精神保健福祉士養成講座第3版 2 精神保健の課題と支援、日本ソーシャルワーカー教育学校連盟編、中央法規
その他	
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	産能大学 メンタルマネジメント相談室においてインテーカー業務に従事したのち、千葉県に精神保健福祉相談員として入庁。県内保健所、精神保健福祉センター等に勤務
学生を主体とする教育方法の実践	該当なし
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(5)／社会学部(6)／人間心理学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	堀内 美穂子(D-0104)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位					
年度	2020年度	科目名	公認心理師の職責									
学期※2	2020年度後期			学校区分	大学							
科目群	心3群			区分(授業形態)	週間授業							
副題												
授業の概要	公認心理師の国家資格化までの歴史的経緯と、公認心理師の職務内容と職業倫理について基本的知識を身につける。公認心理師の業務が主要5分野においてどのように実践されているかを知り、他の関連職種の活動内容についても学ぶ。授業では、各分野の模擬事例を基にグループでディスカッション等を利用して支援方針を立てる等の作業を通じて、多様なアセスメントの視点を習得することを目標とする。											
到達目標	<p>1. 公認心理師の業務と役割について概説できる 2. 公認心理師の法的義務や倫理について概説できる 3. 公認心理師が活動する諸分野とその活動の実態、関連する他職種の役割と活動について概説できる 4. 公認心理師の秘密保持義務や情報の適切な取り扱いについて判断できる 5. 主要5分野（保健医療・福祉・教育・司法・犯罪）における具体的な業務と連携する関係職種について説明できる</p> <p>この科目は、社会学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問における基礎的・専門的知識を身につけている」「優しさと温かみに満ち、総合的な判断能力を持つことができる」、人間心理学科の「心理学、臨床心理学、カウンセリング等に関する教育・研究を深め、専門知識と実践力を有し、真の人間を理解することができる」のディプロマ・ポリシーに基づく</p>											

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容							
第1回	<p>ガイダンス：公認心理師誕生までの歴史的経緯 予習：公認心理師取得に必要な学習内容（履修科目と実習時間）について調べておく（100分） 復習：公認心理師に期待される社会的ニーズについて説明できる（100分）</p>						
第2回	<p>公認心理師の役割と法的義務 予習：テキストp11~p21を精読する（100分） 復習：公認心理師の4つの業務と5つの活動分野について説明できる（100分）</p>						
第3回	<p>公認心理師の法的義務と職業倫理 予習：テキストp22~p34を精読する（100分） 復習：公認心理師の法的義務を守秘義務について説明できる（100分）</p>						
第4回	<p>要支援者の安全確保と人権尊重 予習：テキストp35~p46を精読する（100分） 復習：インターク面接を行う意義やインフォームド・コンセントについて説明できる（100分）</p>						
第5回	<p>情報取得と秘密保持 予習：テキストp48~p60を精読する（100分） 復習：秘密保持の例外状況について説明し、インフォームド・コンセントの実施のタイミングとその内容について説明できる（100分）</p>						
第6回	<p>保健医療分野における公認心理師の業務 予習：テキストp61~p73を精読し、公認心理師が心理学的支援実践を行う施設名を調べ、ノートにまとめる（100分） 復習：医療機関で働く公認心理師が求められる能力と役割、連携する他職種について説明できる（100分）</p>						
第7回	<p>福祉分野における公認心理師の業務 予習：テキストp74~p83を精読し、公認心理師が心理学的支援実践を行う施設名とその役割を調べ、ノートにまとめる（100分） 復習：福祉分野で働く公認心理師が求められる能力と役割、連携する他職種について説明できる（100分）</p>						
第8回	<p>教育分野における公認心理師の業務 予習：テキストp84~p96を精読し、公認心理師が心理学的支援実践を行う施設名を調べ、ノートにまとめる（100分） 復習：教育分野で働く公認心理師が求められる能力と役割、連携する他職種について説明できる（100分）</p>						
第9回	<p>司法・犯罪分野における公認心理師の業務 予習：テキストp97~p109を精読し、公認心理師が心理学的支援実践を行う施設名を調べ、ノートにまとめる（100分） 復習：司法・犯罪分野で働く公認心理師が求められる能力と役割、連携する他職種について説明できる（100分）</p>						
第10回	<p>産業・労働分野における公認心理師の業務 予習：テキストp110~p120を精読し、公認心理師が心理学的支援実践を行う施設名を調べ、ノートにまとめる（100分） 復習：産業・労働分野で働く公認心理師が求められる能力と役割、連携する他職種について説明できる（100分）</p>						
第11回	<p>主要5分野における公認心理師の具体的な業務と多職種連携 一グループディスカッション 予習：主要5分野とは何か、自分が関心をもって深めていきたい領域について書き出してください 復習：ディスカッションを通じて得た自分への気づきをノートにまとめておく（100分）</p>						
第12回	<p>自己課題の発見と解決、生涯学習 予習：テキストp121~141を精読し、疑問を書き出しておく（100分） 復習：自己課題の発見の方法と解決、生涯学習の意義について説明できる（100分）</p>						

第13回	多職種連携と地域連携 予習：テキストp142～p155を精読し、多職種による支援の課題について考えたことを書きだしておく(100分) 復習：連携の重要性や、地域連携の役割について説明できる(100分)
第14回	公認心理師の今後の展望 予習：テキストp156～p169を精読し、今持っている疑問について書き出しておく(100分) 復習：本授業を受講する前と受講した後で、自分にどのような変化が生じたか、支援職を目指す覚悟について自らの考えをまとめておく(100分)

成績評価方法・基準	授業内で不定期に実施するミニテストやリアクションペーパー（30%），定期試験（70%）により評価する。
-----------	---

書名	著者	出版社	ISBN	備考
公認心理師の基礎と実践 1公認心理師の職責	野島 一彦 編	遠見書房	978-4-86616-051-1	
参考書				
その他	授業においては、予習をしたことを前提に発言を求めたり、ミニテストやリアクションペーパーによる回答を求める機会が多い。配慮等を要する事項がある場合には、初回授業の終了時に申し出ること。			
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	産能大学 メンタルマネジメント相談室においてインタークーラー業務に従事したのち、千葉県に精神保健福祉相談員として入庁。県内保健所、精神保健福祉センター等に勤務
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート／グループワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(2)／社会学部(6)／人間心理学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	崎本 武志(T-0304)			履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2020年度	科目名	観光概論				
学期※2	2020年度後期			学校区分	大学		
科目群	現2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	日本の鉄道・交通産業の現状を把握し、各業界の基礎的なルールを学ぶ						
授業の概要	<p>この講座は日本の鉄道・交通の体系について理解するとともに、各業界で日常活用されている基本ルールを中心に学習します。第1回から3回までは日本の交通体系を支えている交通産業の概説を中心に進めます。第4回以降は各交通機関の現場で日常的に活用されている「運賃・料金計算の基本」「各約款」の内容を学びます。ここでは、各交通機関と利用者との契約関係を理解し、現場で必要とされる知識の一端を習得することを目的とします。</p> <p>この授業は、結果として毎年9月に行われる国内旅行業務取扱管理者試験（国家試験）の「国内旅行実務」科目的事前学習ともなるので、受験希望者は有効な事前学習の機会となります。この国家資格を取得すると、旅行業だけでなく地方自治体や最近旅行業に積極的に参入している交通業界への就職にも有利となります。</p>						
到達目標	日本の構造変化とともに鉄道・交通産業も変質を迫られています。外部からは見えにくいこうした産業の実情を知り、鉄道・交通産業の日本における役割を理解します。受講の結果、交通および観光産業に関する関心が高まり、国内旅行業務取扱管理者資格取得にチャレンジされることを望みます。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容

第1回	ガイダンス 講座の概要 交通業界に関する歴史および全体像について
第2回	鉄道業界（1）日本の鉄道とその特徴について
第3回	鉄道業界（2）新幹線開業とその影響・新幹線の費用効果
第4回	鉄道業界の実務（1）JRの運賃 運賃計算の基本
第5回	鉄道業界の実務（2）JRの運賃 運賃計算の基本 その2
第6回	鉄道業界の実務（3）JRの運賃 運賃計算の基本 その3
第7回	鉄道業界の実務（4）JRの運賃・料金 本州と各島会社
第8回	鉄道業界の実務（5）JRの運賃・料金 新幹線・在来線
第9回	鉄道業界の実務（6）JRの料金 乗継割引 その他料金計算のルール
第10回	鉄道業界の実務（7）JRの運賃と料金 まとめ
第11回	航空業界の実務 航空会社の約款とルール
第12回	私鉄・バス・フェリー業界の実務 私鉄・フェリー・バスの約款とルール・世界の豪華客船
第13回	交通・運輸・宿泊産業の実務（鉄道・交通関連業界による講演予定）
第14回	鉄道・交通に関するまとめ

成績評価方法・基準	期末レポート50%・各テーマごとの理解度を見るための授業中の課題（フィードバックレポート）40% 授業中の質疑10%を総合して評価します。
-----------	---

参考書	
その他	
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	株式会社JTBに12年間勤務。首都圏営業本部（東京日本橋支店・首都圏メディア販売事業部・海外旅行虎ノ門事業部・東京蒲田支店）に所属し、主として法人団体営業に従事した。
学生を主体とする教育方法の実践	該当なし
ディプロマ・	社会学部(1)／社会学部(2)／社会学部(3)／社会学部(5)／社会学部(6)／社会学部(7)

ポリシーとの
関連性

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	崎本 武志(T-0304)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位			
年度	2020年度	科目名	鉄道・交通論							
学期※2	2020年度前期			学校区分	大学					
科目群	現2群			区分（授業形態）	週間授業					
副題										
授業の概要	本講義は、これから観光学を学んでいく際に必要とされる基礎的な知識、概念、社会状況等を理解することを第一の目的としています。また、各トピックに関わる最新の事例とその調べ方についても適宜紹介していきます。									
到達目標	本講座は、下記の3点を到達目標とします。 ・観光学を学んでいくまでの基礎知識を習得する。 ・各受講者にとっての関心領域の発見につなげる。 ・観光現象および観光関連産業を通じて、現代社会の理解を深める。									

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	オリエンテーション：講義の内容・方針等について
第2回	観光の現状—日本における観光、世界の観光事情について
第3回	「観光」の概念—観光の語源、本来の意味について詳細を解説
第4回	観光の歴史—日本および世界の観光に関する歴史について
第5回	観光行動と観光者心理—観光の動機・観光行動について・何が観光行動なのか、について
第6回	観光行動の対象(1)アウトバウンドについて
第7回	観光行動の対象(2)インバウンドについて
第8回	観光と情報—観光に関する各種情報・媒体について
第9回	観光と風景—観光がうみだすものについて考察
第10回	観光の影響と効果—観光のもたらすものをいかにして活用するか
第11回	観光と地域社会—観光地域活性化の現状と課題点
第12回	観光政策—海外観光客2000万人時代の観光政策について
第13回	観光産業—宿泊・交通・旅行業・その他の業界と観光についての考察（観光関連業界の講演予定）
第14回	まとめ 観光の将来像

成績評価方法・基準	出席を特に重視します。その上で、レポート、ディスカッション、講義運営・活動、授業態度や発言、講義への還元度などから総合的に判断し、評価する。具体的にはレポート(50%)・毎講義後のフィードバックレポート(50%)です。その他については加点評価します。
-----------	---

参考書	
その他	
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	株式会社JTBに12年間勤務。首都圏営業本部（東京日本橋支店・首都圏メディア販売事業部・海外旅行虎ノ門事業部・東京蒲田支店）に所属し、主として法人団体営業に従事した。
学生を主体とする教育方法の実践	該当なし
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(1)／社会学部(2)／社会学部(3)／社会学部(5)／社会学部(6)／社会学部(7)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	崎本 武志(T-0304)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位			
年度	2020年度	科目名	現代社会実習							
学期※2	2020年度前期、2020年度後期			学校区分	大学					
科目群	現3群			区分（授業形態）	週間授業					
副題										
授業の概要	<p>現在日本では「観光立国」を標榜しており、観光産業の成長が日本の将来を担うほど、観光産業の役割がますます重要になっています。</p> <p>本ゼミナールでは、ホテルなどの宿泊産業、航空・バス・鉄道などの交通産業、旅行代理店を中心とする旅行産業、ディズニーリゾートやUSJなどのテーマパーク産業など観光を目的とする産業や、外食や小売販売店や博物館など公共施設をはじめとするホスピタリティ産業と呼ばれる業界をフィールドにし、これらについて演習や実習を通して自ら率先して探求していただきます。</p>									
到達目標	<p>本ゼミナールは、下記の三点について理解を深めることを目的としています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 観光産業をはじめとするあらゆる産業について見聞を広める。 2. 旅行・観光における基礎的な知識を学習し、知識を体得する。 3. 企画力や社会人基礎力を養い、就職活動の基礎となる素養を身につける。 									

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	ガイダンス：ゼミナール活動についての説明
第2回	日本における観光の考え方
第3回	世界における観光の考え方
第4回	観光資源に関する研究・視察①自然観光資源
第5回	観光資源に関する研究・視察②人文観光資源
第6回	観光目的に関する研究・視察①サステイナブル・ツーリズム
第7回	観光目的に関する研究・視察②マス・ツーリズム
第8回	観光目的に関する研究・視察③コンテンツ・ツーリズム
第9回	観光とまちづくり①
第10回	観光とまちづくり②
第11回	観光とホスピタリティ①ホスピタリティ・マネジメント
第12回	観光とホスピタリティ②ホスピタリティ産業全般について
第13回	観光とホスピタリティ③エージェント
第14回	専門研修・観光コンテストに関するガイダンス
第15回	専門研修・観光コンテストに関する成果発表①
第16回	専門研修・観光コンテストに関する成果発表②
第17回	観光・地域再生に関する企画作成①
第18回	観光・地域再生に関する企画作成②
第19回	観光・地域再生に関する企画作成③
第20回	観光・地域再生に関する企画作成④
第21回	観光・地域再生に関する企画作成⑤
第22回	観光・地域再生に関するプレゼンテーション①
第23回	観光・地域再生に関するプレゼンテーション②
第24回	観光・地域再生に関するプレゼンテーション③
第25回	観光・地域再生に関するプレゼンテーション④

第26回	観光・地域再生に関するプレゼンテーション⑤
第27回	専門ゼミナールに向けた取組①
第28回	専門ゼミナールに向けた取組②

成績評価方法・基準	出席することが前提条件で、参加意欲や貢献度、新奇的な発想力と整理・分析力、及び成果発表会でのプレゼンテーションにより、総合的に評価します。
-----------	---

参考書	
その他	
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	株式会社JTBに12年間勤務。首都圏営業本部（東京日本橋支店・首都圏メディア販売事業部・海外旅行虎ノ門事業部・東京蒲田支店）に所属し、主として法人団体営業に従事した。
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(1)／社会学部(2)／社会学部(3)／社会学部(5)／社会学部(6)／社会学部(7)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	中島 慶二(D-0702)			履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2020年度	科目名	自然遺産論				
学期※2	2020年度後期			学校区分	大学		
科目群	現2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	「自然遺産」という自然環境を守り活かす考え方						
授業の概要	自然環境と社会とのかかわりを、自然遺産という切り口でとらえ、日本の自然環境の概況と自然環境を資源として活用してきた様々な方法について学ぶ。またその前提的な基礎知識として自然遺産の価値の理解に必要な、生態学、生物学に関する基礎的な知識を学ぶ。 毎回授業の最後において授業の中で出た用語や問題などについての小レポートを課す。予習：環境に関する記事に目を通しておく。復習：エドクラテスのスライドを復習する。						
到達目標	日本の自然環境の概況を理解し、代表的な自然環境である世界自然遺産の概要と価値、主要な保全上の課題について説明できる。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	年間授業計画説明（自己紹介、概要紹介、受講ルール、採点方針） 世界自然遺産とは何か、ごく簡単な説明
第2回	日本の世界自然遺産 日本の世界自然遺産4か所のそれぞれの自然環境の特徴とOUVの理解
第3回	奄美・沖縄の遺産登録 2020年夏まえに世界遺産委員会において登録の可否が決まる奄美沖縄の自然遺産登録を学ぶ
第4回	気象と生物 生物や生態系の基本となる気象と生物の関係を学ぶ
第5回	生態系と生物多様性 生物と生態系、生物多様性について概要を学び、生態系の成り立ちや生物種の価値について学ぶ
第6回	日本の生物多様性 日本の生物多様性の現状を学ぶ
第7回	自然の価値評価 自然環境を価値づける方法について学ぶ
第8回	小テスト 前半の講義内容について小テストを行う
第9回	文化遺産・エコパーク・ジオパーク 自然遺産と文化遺産の違い、世界自然遺産に類似の制度としてのエコパーク、ジオパークについて学ぶ
第10回	絶滅危惧種の保護 絶滅の危険にさらされている生物の実態や全体の現状について学ぶ
第11回	外来種問題 生物多様性の問題の一つである外来種問題について現状と対策を学ぶ
第12回	保護地域 生物多様性の確保のための地域保全政策として、国立公園、自然環境保全地域等を学ぶ
第13回	外部講師による特別講義 環境省自然環境局又は地方環境局の職員による特別講義を予定。
第14回	講義まとめ 全体の復習と重要事項の確認を行う

成績評価方法・基準	日本の自然環境の概況、世界自然遺産の概要と価値、主要な保全上の課題に関する定期試験60%、平常点（授業中の発言、復習などの努力、積極的に取り組む姿勢等）40%を合計して評価する。
-----------	---

参考書	『自然公園の手引き』自然公園財団発行
その他	定期試験には自筆ノートのみ持ち込み可
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	環境庁入庁、国立公園管理や野生生物保護を担当する地方環境事務所や自然保護官事務所、環境省本省自然環境局、長崎県庁、宮内庁、復興庁など。これらの経験を活かし毎回講義のはじめに、直近の新聞記事（自然遺産や生物多様性などと関係が深いもの）について紹介し、背景や関連施策などを説明する。
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決方学習)／ディスカッション、ディベート／グループワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(1)／社会学部(2)／社会学部(3)／社会学部(4)／社会学部(5)／社会学部(6)／社会学部(7)／現代社会学科(1)／現代社会学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	中島 慶二(D-0702)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2020年度	科目名	環境の政治学				
学期※2	2020年度後期			学校区分	大学		
科目群	現2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	環境問題を政治問題として学ぶ						
授業の概要	環境問題には様々なステークホルダーが関係していることから、容易に解決せず、政治的課題になることが多い。解決を阻む要因とは、解決へ向かわせる要因とは何なのか。現実に起きた環境問題の発生要因・解決経過とを取り上げて、環境問題を社会的存在として学習する。 毎回授業の最後において授業の中で出た用語や問題などについての小レポートを課す。予習：環境に関する記事に目を通しておく。復習：エドクラテスのスライドを復習する。						
到達目標	主要な環境問題の本質を、社会科学的な視点で分析できるようになる。また、環境問題に対応する法令とその概要について理解し説明できる。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容

第1回	概要・年間授業計画説明（自己紹介、概要紹介、受講ルール、採点方針など）
第2回	身近な環境問題・水質汚濁 最も身近な環境問題であり自分たちが暮らしていくうえで必ず環境を汚してしまうことを理解するために水質汚濁問題は最もわかりやすい課題である。水質汚濁問題を通してまず環境問題のむつかしさを理解する。
第3回	尾瀬問題と国土開発 経済的な発展や国土開発と環境問題の悩ましい関係を理解する。尾瀬の道路中止問題を典型的な例として取り上げ詳しく解説する。
第4回	公害問題の典型・水俣病 日本の高度経済成長に生じた初期の公害の典型である水俣病を開設し、なぜこの事件が起きたのか考える。
第5回	コモンズの悲劇 さまざまな環境問題をどう理解し解決するか、まずは本質的な構造を理解する必要がある。基本的な理解のための理論を学ぶ。
第6回	廃棄物と拡大生産者責任 プラスチックごみに代表される複合的な環境問題である廃棄物問題について、豊島を例に取り上げて学ぶ。
第7回	鳥獣害とオオカミ 近年イノシシ都市化の急激な増加による様々な問題が顕在化し、生態系のバランスが崩れ始めている。この問題を深く掘り下げるとともに対応策を考える。
第8回	小テスト 前半の講義で学んだことについて小テストを行う。
第9回	温暖化対策 現代解決のめどが立っていない環境問題は大きくふたつ。温暖化問題と生物多様性問題。ち、最大の課題である温暖化問題について現状を学ぶ。
第10回	外来生物対策 外来生物問題は社会の経済的な発展とともに激しくなりつつある。どのような問題がありどう対応しているのか。対応施策を学ぶ。
第11回	市場の失敗 環境問題の発生は社会問題であるとともに経済問題であり、経済社会のありようを変革していかなければ解決しない。市場の失敗から環境問題の原点を探る。
第12回	環境法をつくる（エコツーリズム推進法を例に） 法律による環境対策としてはどのようなことが可能で、また、どのようなことができないのか。実際の立法過程を見ながら学ぶ。
第13回	外部講師による特別講義 環境省本省又は地方環境事務所職員による特別講義を予定。
第14回	まとめ：講義全体を通して環境問題解決のための手順と手法を復習し、重点事項を確認する。

成績評価方法・基準	主要な環境問題の本質並びに社会科学的な視点での分析、環境問題に対応する法令とその概要に関する定期試験60%、平常点（授業中の発言、復習などの努力、積極的に取り組む姿勢等）40%を合計して評価する。
-----------	--

参考書	『文系のための環境科学入門【新版】』 藤倉良・藤倉まなみ 有斐閣
その他	定期試験には自筆ノートのみ持ち込み可
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	環境庁入庁、国立公園管理や野生生物保護を担当する地方環境事務所や自然保護官事務所、環境省本省自然環境局、長崎県庁、宮内庁、復興庁など。これらの経験を活かし毎回講義の初めに講義テーマに関係がある直近の新聞記事を紹介し、背景説明、関連施策などを解説する。
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート／グループワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(1)／社会学部(2)／社会学部(3)／社会学部(4)／社会学部(5)／社会学部(6)／社会学部(7)／現代社会学科(1)／現代社会学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	中島 慶二(D-0702)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2020年度	科目名	国立公園論/国立公園及び世界遺産論				
学期※2	2020年度前期			学校区分	大学		
科目群	現2群			区分(授業形態)	週間授業		
副題	最重要自然保護ツール、「国立公園」を知る						
授業の概要	世界の国立公園の潮流、現況と保護地域の中の国立公園の価値評価、管理運営上の問題と解決へ向けて辿った経緯、現在の課題を学び、主に制度面の発達史を意識した学習を通して国立公園という存在を多角的に理解・把握する。 毎回授業の最後において授業の中で出た用語や問題などについての小レポートを課す。予習：環境に関する記事に目を通しておく。復習：エドクラテスのスライドを復習する。						
到達目標	自然保護地域の代表的典型的存在である国立公園の思想、基本的制度、実態、課題にかかる基本常識を持ち、現代の国立公園が抱えている代表的課題について説明することができる。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容

第1回	年間授業計画説明（自己紹介、概要紹介、受講ルール、採点方針）、 国立公園の概要と歴史について学ぶ
第2回	日本の国立公園 34の国立公園の概要を紹介する
第3回	营造物公園と地域制公園（アメリカと日本・国立公園の二大制度）、地域制公園の管理上の課題について学ぶ
第4回	日本の国立公園の指定と対象地域、指定基準の変遷について学ぶ
第5回	公園計画①保護計画の内容、意義、実際の運用について学ぶ
第6回	公園計画②利用計画の内容、意義、実際の運用について学ぶ
第7回	施設整備 施設整備計画や実際の整備の進め方、様々な施設について学ぶ
第8回	廃屋化が進む日本の国立公園の利用拠点と集団施設地区の再整備（層雲峡を例に）について学ぶ
第9回	地域制国立公園制度の基本的な制度である許認可調整について学ぶ
第10回	国立公園の管理制度と現地での管理を担っているレンジャーの仕事について学ぶ
第11回	エコツーリズムと国立公園の関係、エコツーリズムの利点や弱点などを学ぶ
第12回	現在の日本のインバウンド政策と国立公園満喫プロジェクトの内容について学ぶ
第13回	明治期以降の日本の社会背景推移と日本の国立公園制度の推移について学ぶ
第14回	ここまで学んだ内容の全体を復習し、重要事項を確認する

成績評価方法・基準	自然保護地域の代表的典型的存在である国立公園の思想、基本的制度、実態、課題にかかる基本常識を持ち、現代の国立公園が抱えている代表的課題についての定期試験60%、平常点（授業中の発言、復習などの努力、積極的に取り組む姿勢等）40%を合計して評価する。
-----------	--

参考書	『国立公園論』 国立公園研究会・自然公園財団 南方新社 『自然公園の手引き』 自然公園財団
その他	定期試験には自筆ノートのみ持ち込み可
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	環境庁入庁、国立公園管理や野生生物保護を担当する地方環境事務所や自然保護官事務所、環境省本省自然環境局、長崎県庁、宮内庁、復興庁など。これらの経験を活かし毎回講義の初めに直近の自然環境関係の新聞記事を紹介し、背景や関連施策を解説する。
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート／グループワーク
ディプロマ・	社会学部(1)／社会学部(2)／社会学部(3)／社会学部(4)／社会学部(5)／社会学部(6)／社会学部(7)／現代社会学科(1)／現代社会学科(2)

ポリシーとの
関連性

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	中島 慶二(D-0702)			履修開始年次	1年	単位※1	2単位			
年度	2020年度		科目名	環境概論						
学期※2	2020年度前期			学校区分	大学					
科目群	現2群			区分（授業形態）	週間授業					
副題	環境問題の基礎を学ぶ									
授業の概要	現代社会の重要問題である環境問題について、過去及び現在の代表的な環境問題を対象に、それぞれの原因や対策について学び、持続可能な社会の構築に向け、環境問題解決のために必要なこととは何かを考える。 毎回授業の最後において授業の中で出た用語や問題などについての小レポートを課す。予習：環境に関する記事に目を通しておく。復習：エドクラテスのスライドを復習する。									
到達目標	日本と世界の環境問題の概況を理解し、代表的な環境問題のいくつかについてその原因と対策を説明できる。									

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容

第1回	シラバス説明・環境とは何か 環境問題の過去の経緯と現状を簡単におさらいする
第2回	地球温暖化① 地球温暖化のメカニズムを理解し、対策の困難さを学ぶ
第3回	地球温暖化② 地球温暖化の進行状況や対策の現状。今後の取り組み方向について学ぶ
第4回	エネルギー問題 エネルギー問題は地球温暖化問題と表裏一体。技術的な課題や新規技術などについて学ぶ
第5回	生物多様性① 地球温暖化と並び解決が困難な生物多様性劣化問題について、その現状を学ぶ
第6回	生物多様性② 生物多様性劣化問題のうち絶滅防止、外来種問題について詳細に学ぶ。
第7回	廃棄物問題 廃棄物問題と市場経済、規制、技術的進展について学ぶ。
第8回	小テスト 前半で学んだことについてテストを実施する
第9回	水質汚濁 最も身近な環境問題である水質汚濁問題を有機汚濁と化学物質汚染の両面から理解する
第10回	大気汚染 健康被害に直結する大気汚染問題と現状の取り組み状況を理解する
第11回	化学物質汚染 文明の発達に伴い発生する様々な化学物質と対策の取り組みを学ぶ
第12回	都市化 都市化に伴い発生する様々な問題と環境をつなげて理解する
第13回	各種施策 環境問題に対応する施策のありようについて概要を理解する
第14回	講義まとめ これまでの講義をまとめ重要箇所の復習を行う

成績評価方法・基準	日本と世界の環境問題の概況を理解し、代表的な環境問題のいくつかについてその原因と対策を問う定期試験60%、平常点（授業中の発言、復習などの努力、積極的に取り組む姿勢等）40%を合計して評価する。
-----------	---

参考書	『文系のための環境科学入門【新版】』 藤倉良・藤倉まなみ 有斐閣 『環境社会検定試験 e c o 検定公式テキスト』 東京商工会議所 日本能率協会マネジメントセンター
その他	
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	環境庁入庁、国立公園管理や野生生物保護を担当する地方環境事務所や自然保護官事務所、環境省本省自然環境局、長崎県庁、宮内庁、復興庁など。これららの経験を活かし毎回授業の冒頭において最近の環境関係記事を紹介、背景解説を行う。
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決方学習)
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(1)／社会学部(2)／社会学部(3)／社会学部(4)／社会学部(5)／社会学部(6)／社会学部(7)／現代社会学科(1)／現代社会学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	中口 哲治(T-1002)			履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2020年度			科目名	ファッショングビジネス入門		
学期※2	2020年度後期			学校区分	大学		
科目群	経2群			区分(授業形態)	週間授業		
副題	ファッション業界のカテゴリーに触れる						
授業の概要	人々のベーシックな営みに加え流行やおしゃれといった感覚的で、不透明な世界をビジネスの最前線に取り入れて成功して来たのがファッション業界である。本講座はファッションに興味があるが詳しくは知らない、あるいはもっと知りたいと思っている学生たち向けのファッション業界入門編として位置づける。具体的にはメンズ、レディス、インナー、ジーンズなどファッション業界を構成する様々なカテゴリーの存在について理解し、多面的に考察説明できることを目的とする。						
到達目標	ファッションにかかる様々な業界にスポットを当て業界の仕組みやプレイヤー、企業活動の様子を知る。このことにより他の業界との違いを対比推測するといった基本動作を身につけ、第三者に対してファッション業界のポジショニングを説明できる程度の基礎知識の獲得を目的としている。この科目はディプロマポリシーに関連し「新規ビジネスの創造、ファッションビジネス等、ビジネス最前線で活躍できる応用力を育成する」を到達目標とする。						

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容							
第1回	オリエンテーション/講義概要と進め方、ファッションとは? 予習: ファッションの多様性について調べておく(120分) 復習: ファッション、モードの概念について説明できる/配布した資料を再読(80分)						
第2回	ガールズファッションと市場 /ギャルの歴史、ガールズコレクションという起爆剤 予習: Webで「ストリートスナップ」女子版を検索して閲覧しておく(120分) 復習: ガールズ市場の全体像について説明できる/配布した資料を再読(80分)						
第3回	メンズファッションと市場 / 平成男子の実態、男服の変化 予習: Webで「ストリートスナップ」男子版を検索して閲覧しておく(120分) 復習: 平成男子の生態とファッション観について説明できる/配布した資料を再読(80分)						
第4回	化粧品業界について / 最新コスメ、UVケア、美容関連 予習: 百貨店の化粧品売り場に行きメーカーの特徴を調べておく(120分) 復習: 化粧品業界の概要と特徴について説明できる/配布した資料を再読(80分)						
第5回	ブライダルビジネスの現状 /結婚に対する意識、最新ウェディング事情 予習: 最近の結婚事情についてWebで調べておく(120分) 復習: ブライダルビジネスの概要と特徴について説明できる/配布した資料を再読(80分)						
第6回	出版ビジネスの実態 /ファッション雑誌、雑誌編集者の仕事 予習: 好きなファッション雑誌1冊を選んで特徴を調べておく(120分) 復習: 出版ビジネスとファッション業界の関係性について説明できる/配布した資料を再読(80分)						
第7回	ジーンズ業界の現状と今後 /ジーンズの歴史、トレンド、ブランド戦略 予習: デニムとジーンズの違いについて調べておく(120分) 復習: ジーンズ業界の概要について説明できる/配布した資料を再読(80分)						
第8回	キャラクタービジネス戦略 /キャラクターの分類とハローキティ 予習: 一般的なキャラクタービジネスについて調べておく(120分) 復習: サンリオのキャラクター戦略について説明できる/配布した資料を再読(80分)						
第9回	キャラクター調査演習-1 キャラクターの概要と開発経緯(キャラクターを1人1コ選び調査分析を行う) 予習: 好きなキャラクターをピックアップして概要を調べておく(120分) 復習: ピックアップしたキャラクターの開発経緯について説明できる						
第10回	キャラクター調査演習-2 キャラクターとビジネス構造(キャラクターを1人1コ選び調査分析を行う) 予習: ピックアップしたキャラクターのライセンスホルダーを調べておく(120分) 復習: ピックアップしたキャラクターのビジネス構造について説明できる						
第11回	進化するスポーツウエア業界 /スポーツの広がり、最新ウエアトレンド 予習: スポーツ産業の概要について調べておく(120分) 復習: スポーツウエアのトレンドについて説明できる/配布した資料を再読(80分)						
第12回	インテリア業界と雑貨小物 / 業界の分類 予習: セレクトショップに行って雑貨コーナーの内容を調べておく(120分) 復習: インテリア雑貨業界の現状について説明できる/配布した資料を再読(80分)						
第13回							

	インナービジネス/下着の歴史、最新インナートレンドなど 予習：下着(男性・女性)の歴史について調べておく(120分) 復習：インナービジネスの概要について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第14回	モデル業界の実態について 予習：モデルの資格についてネットで調べておく(120分) 復習：モデル業界の現状と課題について説明できる/配布した資料を再読(80分)

成績評価方法・基準	平常点（授業中の発言、復習などの努力、積極的に取り組む姿勢等）42%、演習課題18%、定期試験の結果40%を総合的に評価する。演習課題は提出後、授業の中でフィードバックを行う。
-----------	--

参考書	
その他	
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	鐘紡(ファッショング研究所)にて、国内外トレンド分析・発信業務に従事。その後、マーケティングディレクターとして丸井、三井物産、ワコールなど様々なファッショング関連企業のブランドプロデュース業務に携わる。2007年、ファッショングプロデュース会社の代表取締役に就任し、経営管理の実務を担当。
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決方学習)／反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(1)／社会学部(2)／経営社会学科(1)／経営社会学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	中口 哲治(T-1002)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位			
年度	2020年度	科目名	株式・証券投資論							
学期※2	2020年度前期			学校区分	大学					
科目群	経2群			区分(授業形態)	週間授業					
副題	資本市場の役割と証券投資									
授業の概要	資本市場に求められる役割とは何か。カリキュラム前半は、激変する日本の資本市場の全容と投資のリスク&リターンの考え方、株式投資・ポートフォリオ運用・外国為替相場など、証券投資における重要なテーマを実務の観点から解説する。カリキュラム後半は、自らの資産形成に向けて、公的年金制度・確定拠出年金の活用手法を学び、実際にDCポートフォリオやマネープランの演習課題を行っていく。									
到達目標	証券・金融市場及び資産形成関連のテーマを中心とする講義を通じて、社会・経済の動向に関する見聞を広め、今後の社会生活や個人のお金を基軸としたライフプラン作りに必要な知識を習得する。この科目は経営社会学科のディプロマポリシーに関連し、「社会の変化に対応する創造的なアイデアを具現化するスキルを身につける」を到達目標にしている。									

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	「ガイダンス」資本市場の役割と証券投資 予習：日本経済新聞や日経マニーなどの経済情報に目を通しておく(120分) 復習：資本市場の役割について説明できること、配布資料の再読(80分)
第2回	「経済情報事始め」 予習：日本経済新聞や日経マニーなどの経済情報に目を通しておく(120分) 復習：経済情報の概略について説明できること、配布資料の再読(80分)
第3回	「リスク・リターンとポートフォリオの考え方」 予習：日本経済新聞や日経マニーなどの経済情報に目を通しておく(120分) 復習：ポートフォリオの概要について説明できること、配布資料の再読(80分)
第4回	「債券入門」 予習：日本経済新聞や日経マニーなどの経済情報に目を通しておく(120分) 復習：債権の役割について説明できること、配布資料の再読(80分)
第5回	「株式入門」 予習：日本経済新聞や日経マニーなどの経済情報に目を通しておく(120分) 復習：株式の役割について説明できること、配布資料の再読(80分)
第6回	「グローバル化する世界と資本市場の果たす役割」(外部講師による特別講義) 予習：日本経済新聞や日経マニーなどの経済情報に目を通しておく(120分) 復習：世界の資本市場について概要を説明できること、配布資料の再読(80分)
第7回	「投資信託入門」 予習：日本経済新聞や日経マニーなどの経済情報に目を通しておく(120分) 復習：投資信託の仕組みについて説明できること、配布資料の再読(80分)
第8回	「これからの成長産業」 予習：日本経済新聞や日経マニーなどの経済情報に目を通しておく(120分) 復習：これからの成長産業の特徴について説明できること、配布資料の再読(80分)
第9回	「ライフプランと資産形成」 予習：日本経済新聞や日経マニーなどの経済情報に目を通しておく(120分) 復習：資産形成のポイントについて説明できること、配布資料の再読(80分)
第10回	「公的年金制度について」 予習：日本経済新聞や日経マニーなどの経済情報に目を通しておく(120分) 復習：公的年金制度の概要について説明できること、配布資料の再読(80分)
第11回	「確定拠出年金(DC)について」 予習：日本経済新聞や日経マニーなどの経済情報に目を通しておく(120分) 復習：確定拠出年金の仕組みについて説明できること、配布資料の再読(80分)
第12回	グループワーク「DCポートフォリオの作成」/グループに分かれDCポートフォリオについてディスカッションし完成させる 予習：日本経済新聞や日経マニーなどの経済情報に目を通しておく(120分) 復習：グループで作成したDCポートフォリオを見直す、配布資料の再読(80分)
第13回	グループワーク「マネープランの作成」/グループに分かれマネープランについてディスカッションし完成させる 予習：日本経済新聞や日経マニーなどの経済情報に目を通しておく(120分) 復習：グループで作成したマネープランを見直す、配布資料の再読(80分)

第14回	「合評会」/まとめ 予習：作成したポートフォリオとマネープランの発表準備をしておく(120分) 復習：過去の学習内容(配布資料)の確認と再読(80分)
------	---

成績評価方法・基準	定期試験60%、課題レポート30%、授業中の発言など平常点10%を合計して評価する。
-----------	--

書名	著者	出版社	ISBN	備考
「証券投資の基礎」	野村證券投資情報部編	丸善株式会社		
参考書				
その他				
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	鐘紡(ファッショング研究所)にて、国内外トレンド分析・発信業務に従事。その後、マーケティングディレクターとして丸井、三井物産、ワコールなど様々なファッショングループ企業のブランドプロデュース業務に携わる。2007年、ファッショングループ会社の代表取締役に就任し、経営管理の実務を担当。
学生を主体とする教育方法の実践	反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）／ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(1)／社会学部(2)／経営社会学科(1)／経営社会学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	中口 哲治(T-1002)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2020年度	科目名	ファッショナーマーケティング論				
学期※2	2020年度後期			学校区分	大学		
科目群	経2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	ファッショナーマーケティング論						
授業の概要	グローバル競争化時代を迎えた日本のファッショナーマーケティング企業は自らのブランド商品力に磨きをかけ世界に市場を見出しあげている。ファッショナーマーケティング論では消費者の満足を得る商品を作るために市場分析、商品政策、店舗政策、コミュニケーション施策はどうあるべきかなどファッショナーマーケティング論について理解し、多面的に考察説明出来ることを目的とする。						
到達目標	ファッショナーマーケティング分野で著しく成長をとげる企業の経営及びマーケティング戦略について学び様々な事例の中から企業活動の本質を見抜く力を養う。あわせて業界各論に対して議論できる応用的な知識の獲得を目的としている。この科目はディプロマポリシーに関連し「新規ビジネスの創造、ファッショナーマーケティング等、ビジネス最前線で活躍できる応用力を育成する」を到達目標とする。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容							
第1回	オリエンテーション/ファッショナーマーケティングとは 予習：一般的なマーケティングについて調べておく(120分) 復習：ファッショナーマーケティングの概念について説明できる/配布した資料を再読(80分)						
第2回	ファッショナーマーケティングの構造/ブランドとプランディング 予習：自分の好きなブランドについて調べておく(120分) 復習：ブランドとプランディングの関係性について説明できる/配布した資料を再読(80分)						
第3回	3C分析PEST分析他/消費者動向、自社、競合他社動向など 予習：人々を取り巻く経済、社会の動向について調べておく(120分) 復習：3C分析の位置づけについて説明できる/配布した資料を再読(80分)						
第4回	STP分析/市場細分化とターゲット、消費者分類、感性、着用機会 予習：若者が好きなファッショナーマーケティングを分類しておく(120分) 復習：市場細分化の手法について説明できる/配布した資料を再読(80分)						
第5回	流行のサイクルとアパレル企業の流行予測システム 予習：最近、流行っているモノ・コトについて調べておく(120分) 復習：アパレル業界における流行の作り方について説明できる/配布した資料を再読(80分)						
第6回	4P/アパレル企業のマーチャンダイジング戦略/ 商品構成、価格と原価 予習：アパレルの製造過程について調べておく(120分) 復習：アパレル商品の小売価格と原価の関係性について説明できる/配布した資料を再読(80分)						
第7回	4P/アパレル企業のチャネル戦略/ 店舗、流通 予習：アパレル実店舗とECショップについて調べておく(120分) 復習：アパレル実店舗とECの関係性について説明できる/配布した資料を再読(80分)						
第8回	4P/アパレル企業のコミュニケーション戦略 予習：アパレル企業・ブランドの広告表現について調べておく(120分) 復習：ファッショナーマーケティング広告の変遷と最新事情について説明できる/配布した資料を再読(80分)						
第9回	課題演習/ 仮想的なブランドを作る① 消費者動向と仮説設定、ブランドコンセプト 予習：コラボができるようなブランドを幾つか探してておく(120分) 復習：仮説部分について再度検討を加える(80分)						
第10回	課題演習/ 仮想的なブランドを作る② STPと4Pの具体化 予習：企画したブランドの4Pについて書く内容を決めておく(120分) 復習：企画したブランドの4Pについて再度検討を加える(80分)						
第11回	ファッショナーマーケティング/店舗運営、店舗開発 予習：アパレルショップを訪問し、売り場作りについて調べておく(1020分) 復習：アパレル小売にとって重要なポイントとは？を説明できる/配布した資料を再読(80分)						
第12回	ファッショナーマーケティング/品揃えとVMD仕入れ、販売業務と店舗の販促 予習：アパレルショップを訪問し、VMDについて調べておく(120分) 復習：バイイングとVMDのあり方について説明できる/配布した資料を再読(80分)						
第13回	WEBマーケティング（デジタルマーケティング）の実情 予習：アパレルブランドのWEB広告とプロモーションについて調べておく(120分) 復習：WEBプロモーションの重要性について説明できる/配布した資料を再読(80分)						
第14回							

新しいマーケティング手法、業界の未来予測と考察
予習：最近のAI活用事例について調べておく(120分)
復習：アパレル業界のAI活用と課題について説明できる/配布した資料を再読(80分)

成績評価方法・基準	平常点（授業中の発言、復習などの努力、積極的に取り組む姿勢等）42%、演習課題18%、定期試験の結果40%を総合的に評価する。演習課題は提出後、授業の中でフィードバックを行う。
-----------	--

参考書	
その他	
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	鐘紡(ファッショング研究所)にて、国内外トレンド分析・発信業務に従事。その後、マーケティングディレクターとして丸井、三井物産、ワコールなど様々なファッショングループ企業のブランドプロデュース業務に携わる。2007年、ファッショングループ会社の代表取締役に就任し、経営管理の実務を担当。
学生を主体とする教育方法の実践	反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(1)/社会学部(2)/経営社会学科(1)/経営社会学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、選年科目となります。

教員名	中口 哲治(T-1002)			履修開始年次	カリキュラムにより異なります。	単位※1	2単位		
年度	2020年度	科目名	ファッショナーマネジメント論						
学期※2	2020年度前期			学校区分	大学				
科目群	経2群			区分(授業形態)	週間授業				
副題	ファッショナーマネジメント論								
授業の概要	グローバル競争化時代を迎えた日本のファッショナーマネジメント論では、様々なファッショナーマネジメント論について、成功・失敗といったケーススタディの中から今後のファッショナーマネジメント論をとるべきかを自分なりに理解し、多面的に考察説明出来ることを目的とする。								
到達目標	ファッショナーマネジメント論では、様々なファッショナーマネジメント論について、成功・失敗といったケーススタディの中から今後のファッショナーマネジメント論をとるべきかを自分なりに理解し、多面的に考察説明出来ることを目的とする。								

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容							
第1回	オリエンテーション/ 講義概要と進め方、マネジメントとは? 予習: 様々なマネジメントの形態について調べておく(120分) 復習: マネジメントの概念について説明できる/配布した資料を再読(80分)						
第2回	企業とインプット(資本コントロール)/Francfrancのマネジメントバイアウト 予習: マネジメントバイアウトについて調べておく(120分) 復習: Francfrancの事例に基づき企業のインプット戦略について説明できる/配布した資料を再読(80分)						
第3回	企業とアウトプット(製品・ブランド) /イッセイミヤケの市場地位戦略 予習: 一般的な企業の市場地位戦略について調べておく(120分) 復習: イッセイミヤケの事例に基づき企業のアウトプット戦略について説明できる/配布した資料を再読(80分)						
第4回	競争戦略のマネジメント-1/ ZOZOTOWNの一人勝ち戦略 予習: 一般的な企業の競争戦略について調べておく(120分) 復習: ZOZOTOWNの事例に基づき企業の競争戦略について説明できる/配布した資料を再読(80分)						
第5回	競争戦略のマネジメント-2/しまむらのコストリーダーシップ戦略 予習: しまむらの店舗に行って管理手法を調べておく(120分) 復習: しまむらの事例に基づきコストリーダーシップ戦略について説明できる/配布した資料を再読(80分)						
第6回	多角化戦略のマネジメント/ストライブインターナショナルの市場最適化戦略 予習: 一般的な企業の多角化戦略について調べておく(120分) 復習: ストライブインターナショナルの事例に基づき企業の多角化戦略について説明できる/配布した資料を再読(80分)						
第7回	国際化のマネジメント/ユニクロのグローバルマーケティング戦略 予習: 一般的な企業の国際化戦略について調べておく(120分) 復習: ユニクロの事例に基づき企業のグローバル戦略について説明できる/配布した資料を再読(80分)						
第8回	マクロ・ミクロ組織戦略/ワコールの人間至上主義戦略 予習: 一般的な企業の組織戦略について調べておく(120分) 復習: ワコールの事例に基づき企業の組織戦略について説明できる/配布した資料を再読(80分)						
第9回	経営戦略演習-1 企業のクロスSWOT分析と経営戦略(有力企業を1人1社選び戦略分析を行う) 予習: クロスSWOT分析の事例について調べておく(120分) 復習: ピックアップした企業のクロスSWOT分析結果について説明できる						
第10回	経営戦略演習-2 企業のバリューチェーン分析と経営戦略(有力企業を1人1社選び戦略分析を行う) 予習: バリューチェーン分析、財務分析の概要について調べておく(120分) 復習: ピックアップした企業のバリューチェーンと中長期戦略について説明できる						
第11回	企業における戦略的CSRとは/モンベルの企業姿勢と社会貢献活動 予習: 一般的な企業のCSRについて調べておく(120分) 復習: モンベルの事例に基づき企業のCSR戦略について説明できる/配布した資料を再読(80分)						
第12回	企業のコアコンピタンス者 /タサキの技術志向、顧客志向 予習: コアコンピタンスについて調べておく(120分) 復習: タサキの事例に基づき企業のコアコンピタンスについて説明できる/配布した資料を再読(80分)						

第13回	アパレル産業のビジネスモデル / 次世代型デザイナーズアパレル成功の鍵 予習：最近のデザイナーズアパレルについて調べておく(120分) 復習：SACAIの事例に基づきデザイナーズアパレルが成功するファクターについて説明できる/配布した資料を再読(80分)
第14回	ファッション業界のあり方、2030年の未来予測に関する考察 予習：ファッション業界の未来についてネットで調べておく(120分) 復習：業界の方向性について説明できる/配布した資料を再読(80分)

成績評価方法・基準	平常点（授業中の発言、復習などの努力、積極的に取り組む姿勢等）42%、演習課題18%、定期試験の結果40%を総合的に評価する。演習課題は提出後、授業の中でフィードバックを行う。
-----------	--

参考書	
その他	
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	鐘紡(ファッション研究所)にて、国内外トレンド分析・発信業務に従事。その後、マーケティングディレクターとして丸井、三井物産、ワコールなど様々なファッション関連企業のブランドプロデュース業務に携わる。2007年、ファッションプロデュース会社の代表取締役に就任し、経営管理の実務を担当。
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決方学習)／反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(1)／社会学部(2)／経営社会学科(1)／経営社会学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	杉山 敏啓(T-0101)			履修開始年次	1年	単位※1	2単位			
年度	2020年度	科目名	金融ビジネス基礎I/金融基礎I							
学期※2	2020年度前期			学校区分	大学					
科目群	経2群			区分（授業形態）	週間授業					
副題	金融の基礎的な理解力を身につけます。									
授業の概要	金融は企業経営や個人生活において重要な役割を果たしています。金融ビジネスは産業としても重要な位置づけであり、日本を含む各国では情報テクノロジーを活用することで、金融ビジネスを未来の成長産業として育成しようと期待を寄せています。金融の面白さに触れながら、現代の金融ビジネスの理論と現実の両面から分かりやすく解説します。金融ビジネス基礎Iは金融サービスを提供する金融機関の種類や業務内容の観点から学習を進めます。金融ビジネス基礎IIは金融サービスを提供する金融機関サイドの観点から学習を進めます。									
到達目標	この科目は経営社会学科のディプロマ・ポリシーに即し、将来的に金融ビジネスの最前線で活躍できるような基礎力と応用力を養うことを意図して進行します。金融ビジネスについての学習を通じて、金融経済社会で用いられる主要用語を理解し、説明する基礎力を身につけることを目的とします。金融ビジネス基礎Iは金融サービスを提供する金融機関サイドの観点から学習を進めます。									

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容							
第1回		金融の基礎 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）					
第2回		金融システムの全体像 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）					
第3回		金融機関の種類と機能 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）					
第4回		日本銀行と金融政策 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）					
第5回		銀行の種類と役割 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）					
第6回		決済の仕組み 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）					
第7回		預金・貸出しと信用創造 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）					
第8回		協同組織金融機関 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）					
第9回		政策金融機関 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）					
第10回		証券会社 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）					
第11回		保険会社 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）					
第12回		消費者向けノンバンク 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）					
第13回		事業者向けノンバンク 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）					

第14回	金融ビジネスの最先端とFinTech（フィンテック） 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
------	--

成績評価方法・基準	期末筆記試験70%、小テスト30%の比重で成績評価を行います。両試験では金融ビジネスに関する主要キーワードの理解度、主要金融指標の相互関係に関する理解度に重点を置いて確認します。
-----------	---

参考書	
その他	講義レジュメを授業にて配布しますが、これに加えて筆記用具、ノートを持参してください。金融に関するニュースなどに、興味関心を持って受講されることを推奨します。
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	都市銀行系シンクタンクで金融機関マネジメントに関する研究開発・コンサルティングに25年以上従事するとともに、都市銀行への出向、京都市会計室金融専門員の兼務歴任等、金融ビジネスの提供や利用に関連する幅広い実務経験を有する。
学生を主体とする教育方法の実践	該当なし
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(2)／経営社会学科(1)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	杉山 敏啓(T-0101)			履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2020年度	科目名	金融ビジネス基礎II/金融基礎II				
学期※2	2020年度後期			学校区分	大学		
科目群	経2群			区分(授業形態)	週間授業		
副題	金融ビジネス基礎IIは金融サービスの利用者サイドの観点から学習を進めます。						
授業の概要	金融は企業経営や個人生活において重要な役割を果たしています。金融ビジネスは産業としても重要な位置づけであり、日本を含む各国では情報テクノロジーを活用することで、金融ビジネスを未来の成長産業として育成しようと期待を寄せています。金融の面白さに触れながら、現代の金融ビジネスの理論と現実の両面から分かりやすく解説します。金融ビジネス基礎IIは金融サービスの利用者サイドの観点から学習を進めます。						
到達目標	この科目は経営社会学科のディプロマ・ポリシーに即し、将来的に金融ビジネスの最前線で活躍できるような基礎力と応用力を養うことを意図して進行します。金融ビジネスについての学習を通じて、金融経済社会で用いられる主要用語を理解し、説明する基礎力を身につけることを目的とします。金融ビジネス基礎IIは金融サービスの利用者サイドの観点から学習を進めます。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容

第1回	利用者から見た金融ビジネス 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第2回	個人にとっての金融 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第3回	パーソナルファイナンス(1)資金運用 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第4回	パーソナルファイナンス(2)住宅ローン 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第5回	パーソナルファイナンス(3)その他ローン 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第6回	パーソナルファイナンス(4)リスクマネジメント 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第7回	企業にとっての金融 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第8回	コーポレートファイナンス(1)企業財務と金融 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第9回	コーポレートファイナンス(2)資金調達 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第10回	公共にとっての金融 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第11回	金融市场の種類と役割 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第12回	株式の種類と役割 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第13回	債券の種類と役割 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第14回	

デリバティブ取引
予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度）
復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）

成績評価方法・基準	期末筆記試験70%、小テスト30%の比重で成績評価を行います。両試験では金融ビジネスに関する主要キーワードの理解度、主要金融指標の相互関係に関する理解度に重点を置いて確認します。
-----------	---

参考書	
その他	講義レジュメを授業にて配布しますが、これに加えて筆記用具、ノートを持参してください。金融に関するニュースなどに、興味関心を持って受講されることを推奨します。
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	都市銀行系シンクタンクで金融機関マネジメントに関する研究開発・コンサルティングに25年以上従事するとともに、都市銀行への出向、京都市会計室金融専門員の兼務歴任等、金融ビジネスの提供や利用に関連する幅広い実務経験を有する。
学生を主体とする教育方法の実践	該当なし
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(2)／経営社会学科(1)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	杉山 敏啓(T-0101)			履修開始年次	カリキュラムにより異なります。	単位※1	2単位			
年度	2020年度	科目名	コーポレートファイナンスI/コーポレイトFI							
学期※2	2020年度前期			学校区分	大学					
科目群	経2群			区分(授業形態)	週間授業					
副題	企業経営をファイナンスの側面から理解する力を身につけます。									
授業の概要	企業が経営を行うためにはヒト・モノ・カネを用いる必要があります。コーポレートファイナンスは資金(おカネ)の流れという視点から企業経営を分析し、投資家の期待を充足する企業経営成果を挙げることの重要性を理解します。コーポレートファイナンスに関する主要用語を理解するとともに、企業の経営状態や経営戦略を、財務・金融の視点から理解する力を身につけます。コーポレートファイナンスIは企業の財務諸表と株価情報を活用した株式価値評価に重点を置いた学習を進めます。									
到達目標	この科目は経営社会学科のディプロマ・ポリシーに即し、将来的に金融ビジネスの最前線で活躍できるような基礎力と応用力を養うことを意図して進行します。企業経営をファイナンス(財務・金融)の視点から理解し、企業経営について説明することができる基礎力を身につけることを目的とします。コーポレートファイナンスIは株式価値評価を巡る理論と手法に重点を置いた学習を進めます。									

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	企業経営とファイナンス 予習: 講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する (100分程度) 復習: 講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する (100分程度)
第2回	企業の資金調達手段 予習: 講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する (100分程度) 復習: 講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する (100分程度)
第3回	企業価値経営とキャッシュフロー 予習: 講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する (100分程度) 復習: 講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する (100分程度)
第4回	企業の財務分析手法(1)財務諸表と財務指標 予習: 講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する (100分程度) 復習: 講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する (100分程度)
第5回	企業の財務分析手法(2)企業の資本構成 予習: 講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する (100分程度) 復習: 講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する (100分程度)
第6回	企業の財務分析手法(3)企業の資本コスト 予習: 講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する (100分程度) 復習: 講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する (100分程度)
第7回	企業の財務分析手法(4)ノートPCを用いた演習 予習: 講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する (100分程度) 復習: 講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する (100分程度)
第8回	株式評価指標(1)市場全体の評価 予習: 講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する (100分程度) 復習: 講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する (100分程度)
第9回	株式評価指標(2)個別銘柄の評価 予習: 講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する (100分程度) 復習: 講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する (100分程度)
第10回	リターンとリスク(1)收益率の評価 予習: 講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する (100分程度) 復習: 講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する (100分程度)
第11回	リターンとリスク(2)收益率の変動リスクの評価 予習: 講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する (100分程度) 復習: 講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する (100分程度)
第12回	リターンとリスク(3)ポートフォリオのリスク 予習: 講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する (100分程度) 復習: 講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する (100分程度)
第13回	リターンとリスク(4)資本資産価格モデル 予習: 講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する (100分程度)

	復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第14回	リターンとリスク(5)ノートPCを用いた演習 予習：PC演習用ファイルを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえてPC演習用ファイル等を復習する（100分程度）

成績評価方法・基準	期末筆記試験60%、中間テスト20%、PC演習20%の比重で成績評価を行います。試験では企業ファイナンスに関する主要キーワードの理解度、主要な企業分析指標の活用のための理解度に重点を置いて確認します。
-----------	--

参考書	コーポレートファイナンス入門〈第2版〉（日経文庫）砂川 伸幸 日本経済新聞出版社 2017年
その他	講義レジュメを授業にて配布しますが、これに加えて筆記用具、ノート、電卓を持参してください。ノートPCの使用を指定する回では各自ノートPCを必ず持参してください。PC演習後には作業成果の提出を義務付けます。コーポレートファイナンスI,IIは前後期続けて履修することを前提に講義を進めます。
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	都市銀行系シンクタンクで金融機関マネジメントに関する研究開発・コンサルティングに25年以上従事。コーポレートファイナンス分野の実務的資格である日本証券アナリスト協会検定会員（認定アナリスト）を取得・保有。
学生を主体とする教育方法の実践	実習、フィールドワーク
ディプロマ・ボリシーとの関連性	社会学部(2)／社会学部(4)／経営社会学科(1)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	杉山 敏啓(T-0101)			履修開始年次	カリキュラムにより異なります。	単位※1	2単位					
年度	2020年度	科目名	コーポレートファイナンスII/コーポレイトF II									
学期※2	2020年度後期			学校区分	大学							
科目群	経2群			区分(授業形態)	週間授業							
副題	企業が行うプロジェクト価値をファイナンスの側面から理解する力を身につけます。											
授業の概要	企業が経営を行うためにはヒト・モノ・カネを用いる必要があります。コーポレートファイナンスは資金(おカネ)の流れという視点から企業経営を分析し、投資家の期待を充足する企業経営成果を挙げることの重要性を理解します。コーポレートファイナンスに関する主要用語を理解するとともに、企業の経営状態や経営戦略を、財務・金融の視点から理解する力を身につけます。コーポレートファイナンスIIは企業の投資プロジェクトについて時間価値を考慮した価値評価手法に重点を置いた学習を進めます。											
到達目標	この科目は経営社会学科のディプロマ・ポリシーに即し、将来的に金融ビジネスの最前線で活躍できるような基礎力と応用力を養うことを意図して進行します。企業経営をファイナンス(財務・金融)の視点から理解し、企業経営について説明することができる基礎力を身につけることを目的とします。コーポレートファイナンスIIはNPV(Net Present Value)によるプロジェクト価値評価手法に重点を置いた学習を進めます。											

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	企業価値評価と投資判断 予習: 講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する (100分程度) 復習: 講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する (100分程度)
第2回	キャッシュフローの時間価値 予習: 講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する (100分程度) 復習: 講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する (100分程度)
第3回	債券の現在価値評価 予習: 講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する (100分程度) 復習: 講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する (100分程度)
第4回	株式の現在価値評価 予習: 講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する (100分程度) 復習: 講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する (100分程度)
第5回	エンタープライズDCF法 予習: 講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する (100分程度) 復習: 講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する (100分程度)
第6回	NPVによる投資評価(1)NPVとIRR 予習: 講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する (100分程度) 復習: 講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する (100分程度)
第7回	NPVによる投資評価(2)ケーススタディ 予習: 講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する (100分程度) 復習: 講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する (100分程度)
第8回	NPVによる投資評価(3)ノートPCを用いた演習 予習: PC演習用ファイルを予習し不明な用語等を調査する (100分程度) 復習: 講義内容を踏まえてPC演習用ファイル等を復習する (100分程度)
第9回	デリバティブ(1)先物・スワップ・オプション 予習: 講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する (100分程度) 復習: 講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する (100分程度)
第10回	デリバティブ(2)オプション利得とオプション価格 予習: 講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する (100分程度) 復習: 講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する (100分程度)
第11回	デリバティブ(3)オプション価格決定モデル 予習: 講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する (100分程度) 復習: 講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する (100分程度)
第12回	リアルオプション評価(1)プロジェクトの延期 予習: 講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する (100分程度) 復習: 講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する (100分程度)
第13回	リアルオプション評価(2)プロジェクトの先行投資 予習: 講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する (100分程度)

	復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第14回	リアルオプション評価(3)ノートPCを用いたケーススタディ 予習：PC演習用ファイルを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえてPC演習用ファイル等を復習する（100分程度）

成績評価方法・基準	期末筆記試験60%、中間テスト20%、PC演習20%の比重で成績評価を行います。試験ではDCF法によるプロジェクト価値評価の理解度と応用力に重点を置いて確認します。
-----------	--

参考書	コーポレートファイナンス入門〈第2版〉(日経文庫) 砂川 伸幸 日本経済新聞出版社 2017年
その他	講義レジュメを授業にて配布しますが、これに加えて筆記用具、ノート、電卓を持参してください。ノートPCの使用を指定する回では各自ノートPCを必ず持参してください。PC演習後には作業成果の提出を義務付けます。コーポレートファイナンスI,IIは前後期続けて履修することを前提に講義を進めます。
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	都市銀行系シンクタンクで金融機関マネジメントに関する研究開発・コンサルティングに25年以上従事。コーポレートファイナンス分野の実務的資格である日本証券アナリスト協会検定会員（認定アナリスト）を取得・保有。
学生を主体とする教育方法の実践	実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(2)/社会学部(4)/経営社会学科(1)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	神田 洋(T-0901)			履修開始年次	カリキュラムにより異なります。	単位※1	2単位			
年度	2020年度	科目名	スポーツジャーナリズム論							
学期※2	2020年度前期			学校区分	大学					
科目群	マ2群			区分（授業形態）	週間授業					
副題	近代競技スポーツとメディア									
授業の概要	近代競技スポーツの誕生、伝播にはメディアの存在が欠かせなかった。スポーツとメディアのかかわりから、現代社会の普遍的な問題を探る。スポーツの歴史を学ぶことでジャーナリズム的視点を養う。またジャーナリズム的視点から現代スポーツを読み解く。日本と英国、米国のスポーツを主な題材とする。									
到達目標	ジャーナリズムとは何か、スポーツとは何か、漠然としたイメージを具体化できるよう論を組み立てる。地域や歴史の特性に注目しながら、気になるスポーツニュースの要点を掘り下げる力を身につける。メディアコミュニケーション学部の「知識と体験を基に、批判的かつ洞察的に思考し判断することができる」というディプロマ・ポリシーに結びつく科目。									

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容

第1回	予習、復習は毎回各100分程度。 オリエンテーション スポーツとは何か
第2回	“アメリカンスポーツ”の起源 ベースボールとメディア 予習：18世紀の米国で広く読まれた「ポケットブック」について調べる。 復習：ベースボール誕生とメディアのかかわりについて説明できるようにする。
第3回	野球殿堂の嘘 偽りの聖地とメディア 予習：A.G.スバルディングについて調べる。 復習：米国野球殿堂誕生の歴史について説明できるようにする。
第4回	競技スポーツの誕生 フットボール黎明期 予習：モブフットボール、マスマットボールについて調べる。 復習：サッカーの語源について説明できるようにする。
第5回	競技場が示すもの ルースが建てた家？ 予習：ペーブ・ルースの生涯について調べる。 復習：野球規則のフィールド規定について説明できるようにする。
第6回	スポーツルール考① 平等ってなんだ？ 予習：ボクシング軽量級の階級ごとの体重を調べる。 復習：日英両国における平等の考え方を説明できるようにする。
第7回	スポーツルール考② スポーツをスポーツたらしめるもの 予習：競技スポーツを街中で行ったら違法となるプレーをリストアップする。 復習：一般社会の法と競技ルールの違いを説明できるようにする。
第8回	スポーツジャーナリズムの隆盛 1920年代の米国 予習：ジャック・デンプシーについて調べる 復習：大量消費社会のメディアと偶像について説明できるようする。
第9回	日本のスポーツジャーナリズム 「いだてん」と天狗たち 予習：安部磯雄について調べる 復習：与えられた明治期の記事を読む。
第10回	スポーツ、日本上陸 独自ルールを生まない国 予習：明治期の記事について問い合わせられるようする。 復習：歐州から競技スポーツを輸入した日米の違いを説明できるようする。
第11回	甲子園という文化

	異例尽くしの祭典 予習：甲子園大会の始まりについて調べる 復習：甲子園大会と「野球害毒論」の関係について説明できるようにする。
第12回	プロ野球から考える日本 なぜN o. 1スポーツたり得たか 予習：プロ野球の国際大会出場について調べる 復習：プロ野球の始まりとメディアの関係について説明できるようにする。
第13回	スポーツと体育 日本スポーツ界の苦悩 予習：なぜ体育で多くの競技を経験するのかを調べる 復習：体育改善案を述べられるようにする。
第14回	前期総括 復習：総括を基に期末試験の準備をする。

成績評価方法・基準	質問への口頭での回答やコメントシート記入など批判的考察を求める講義参加50%、スポーツとメディアの関係についての専門知識を問う学期末試験50%を合計して評価する。
-----------	---

参考書	
その他	講義内容が多岐にわたるため、教科書は使用しない。参考書は毎回講義に沿ったものを2、3冊紹介する。
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	通信社で記者、デスクとして25年間勤務し、主にプロ野球と大リーグを担当した。スポーツジャーナリズムの現場の状況をふまえて問題点や歴史を論じる。
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決方学習)／反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）／プレゼンテーション
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(1)／メディアコミュニケーション学部(2)／メディアコミュニケーション学部(3)／メディアコミュニケーション学部(4)／メディアコミュニケーション学部(5)／メディアコミュニケーション学部(6)／メディアコミュニケーション学部(7)／マス・コミュニケーション学科(1)／マス・コミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	神田 洋(T-0901)			履修開始年次	カリキュラムにより異なります。	単位※1	2単位			
年度	2020年度	科目名	スポーツジャーナリズム論II							
学期※2	2020年度後期			学校区分	大学					
科目群	マ2群			区分(授業形態)	週間授業					
副題	現代スポーツの諸問題									
授業の概要	現代スポーツが抱える問題を主に報道から分析し、現代社会について考察する。スポーツの歴史を検証することでジャーナリズム的視点を養う。またジャーナリズム的視点からスポーツを読み解く。日本と英国、米国のスポーツ報道を主な題材とする。									
到達目標	ジャーナリズムとは何か、スポーツとは何か、大きな定義を個別の事象の中に見いだせるよう論を組み立てる。各地域や歴史の特性を理解することで、現代日本のスポーツニュースを読み解く力を身につける。メディアコミュニケーション学部の「知識と体験を基に、批判的かつ洞察的に思考し判断することができる」というディプロマ・ポリシーに結びつく科目。									

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容

第1回	【全般】予習、復習は毎回それぞれ60分程度。 オリエンテーション スポーツとメディア 復習：前期の講義概要を説明できるようにする。
第2回	プロスポーツの隆盛とアマチュアリズム 忘れられた英雄ソープ 予習：ジム・ソープについて調べる。 復習：アマチュアリズムの歴史について説明できるようにする。
第3回	どうなる東京五輪 五輪の歴史と未来 予習：2020東京五輪の予算額について調べる 復習：五輪のレガシーについて説明できるようにする。
第4回	スポーツ中継と金の歴史 1984ロサンゼルス五輪が生んだもの 予習：ビーター・ユペロスについて調べる。 復習：スポーツのプロ化について説明できるようにする。
第5回	どうなる東京パラリンピック スポーツの新たな可能性 予習：パラリンピック記録がオリンピックに迫る種目について調べる。 復習：スポーツとハンディキャップの思想について説明できるようにする。
第6回	スポーツと金 Jリーグかプロ野球か 予習：なぜJリーグにドラフト会議がないのかを調べる。 復習：日本プロスポーツの2大リーグの特徴を説明できるようにする。
第7回	最強の女性アスリートは誰だ ステレオタイプと解放、タイトルIX 予習：タイトルIXについて調べる。 復習：女性の競技スポーツ参加の歴史について説明できるようにする
第8回	スポーツと人種 ニグロリーグが示すもの 予習：ジョシュ・ギブソンについて調べる。 復習：米国の中人排除、英國の下層階級排除というスポーツ界に起きたことを説明できるようにする。
第9回	薬物問題から考える「逸脱」① 米国はなぜマグワイアを許したか 予習：1998年のマグワイアについて調べる。 復習：ドーピングの定義について説明できるようにする。
第10回	薬物問題から考える「逸脱」② 米国はなぜマグワイアに怒ったか 予習：ホセ・カンセコについて調べる。 復習：スポーツ選手の逸脱行為について説明できるようにする。

第11回	大学運動部は変われるか NCAAとUNIVAS 予習：Final Fourについて調べる。 復習：大学スポーツのビジネス化の功罪について説明できるようにする。
第12回	「みる」スポーツと「する」スポーツ 日本での歴史と課題 予習：インブリー事件について調べる。 復習：応援団の役割について説明できるようにする。
第13回	発言するアスリート ダルビッシュは野球を変えるか 予習：コリン・キャパニックについて調べる。 復習：スポーツ選手の社会運動の歴史について説明できるようにする。
第14回	後期総括 復習：総括を基に後期試験に向け学習する。

成績評価方法・基準	質問への口頭での回答やコメントシート記入など批判的考察を求める講義参加50%、スポーツとメディアの関係についての専門知識を問う学期末試験50%を合計して評価する。
-----------	---

参考書	
その他	講義内容が多岐にわたるため、教科書は使用しない。参考書は毎回講義に沿ったものを2、3冊紹介する。
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	通信社で記者、デスクとして25年間勤務し、主にプロ野球と大リーグを担当した。スポーツジャーナリズムの現場の状況をふまえて問題点や歴史を論じる。
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決方学習)／反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）／プレゼンテーション
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(1)／メディアコミュニケーション学部(2)／メディアコミュニケーション学部(3)／メディアコミュニケーション学部(4)／メディアコミュニケーション学部(5)／メディアコミュニケーション学部(6)／メディアコミュニケーション学部(7)／マス・コミュニケーション学科(1)／マス・コミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	神田 洋(T-0901)			履修開始年次	3年	単位※1	2単位			
年度	2020年度	科目名	スポーツ・ライター、キャスター論I							
学期※2	2020年度前期			学校区分	大学					
科目群	マ2群			区分(授業形態)	週間授業					
副題										
授業の概要	スポーツを見ること、文章で表現することについて具体的な事例を基に学ぶ。スポーツを起点にし、スポーツにとどまらないライター論へと考察を広げる。									
到達目標	ライターの基本動作について知識を得て、小リポートなどで実践を試みる。また著名作品を分析し、作品を支える視点を学ぶ。メディアコミュニケーション学部の「自己の意見を適切に表現し、他者に配慮しながら積極的にコミュニケーションできる」というディプロマ・ポリシーに結びつく科目。									

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	予習、復習はそれぞれ100分程度ずつ オリエンテーション 記者の仕事 復習：日程把握
第2回	質問がライターの根幹 質問ゲーム① 予習：質問リスト作り 復習：質問内容の検討
第3回	質問ゲーム② 前回の反省を基に質問ゲームの質を高める 予習：質問リスト作り 復習：質問内容の検討
第4回	新聞のスポーツ面を読む 構成と記事の決まり事 予習：注目記事のピックアップ 復習：運動記事の種類を説明できるようにする
第5回	スポーツライティングの特性 新聞の他面との違い 予習：新聞面比較 復習：一般紙とスポーツ紙のポイントを説明できるようにする
第6回	君がデスクだ① ここがおかしいスポーツ記事 予習：疑問に思った記事のリストアップ 復習：記事のリライトを試みる
第7回	君がデスクだ② 私ならこう書く 予習：記事のリライト 復習：記事講評をふまえた見直し
第8回	スマホ時代のスポーツ記事 ライン文章論 予習：スマホで読んで意味が分かりにくい記事をリストアップ 復習：4回目との関連で、スポーツ面構成の新しい流れを考察する
第9回	記録の世界 スコアシートから見えるもの 予習：「好きな記録」のリストアップ 復習：記録と娛樂について説明できるようにする
第10回	新聞記事比較① マスコミは画一的か「独自ダネ」の量を検討する 予習：注目記事のピックアップ 復習：記事の内容整理
第11回	新聞記事比較② エンターテナーは誰だ 予習：注目記事のピックアップ 復習：記事の内容整理

第12回	速報と統報 ニュースは育つ、野球賭博報道から見たニュース伝播 予習：野球賭博事件について調べる 復習：現場の速報対応について説明できるようにする
第13回	書くことの意味 盗作、ねつ造、不祥事から学ぶ 予習：新聞記者の編集にまつわる不祥事について調べる 復習：個別の案件に共通する問題を説明できるようにする
第14回	前期総括 復習：総括を基に前期試験に向けて準備をする

成績評価方法・基準	新聞記事提出や質問への口頭での回答など講義参加 60%、取材者としてのアイデアを問う学期末試験 40%を合計して評価する。
-----------	---

参考書	
その他	内容が多岐にわたるため教科書はなし。毎回、講義内容に沿った参考書を 2、3 冊紹介する。
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	通信社で記者、デスクとして25年間勤務し、主にプロ野球と大リーグを担当。報道現場の動きや記者の基本動作をふまえて問題点を論じる。
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決方学習)／反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)／ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(1)／メディアコミュニケーション学部(2)／メディアコミュニケーション学部(3)／メディアコミュニケーション学部(4)／メディアコミュニケーション学部(5)／メディアコミュニケーション学部(6)／メディアコミュニケーション学部(7)／マス・コミュニケーション学科(1)／マス・コミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	神田 洋(T-0901)			履修開始年次	3年	単位※1	2単位			
年度	2020年度	科目名	スポーツ・ライター、キャスター論II							
学期※2	2020年度後期			学校区分	大学					
科目群	マ2群			区分（授業形態）	週間授業					
副題										
授業の概要	スポーツを見ること、文章で表現することについて具体的な事例を基に学ぶ。スポーツを起点にし、スポーツにとどまらないライター論へと考察を広げる。									
到達目標	著名作品の分析から、作品の核となる要素と作者の視点を学ぶ。小リポートなどで作家の手法の実践を試みる。メディアコミュニケーション学部の「自己の意見を適切に表現し、他者に配慮しながら積極的にコミュニケーションできる」というディプロマ・ポリシーに結びつく科目。									

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	予習、復習はそれぞれ100分程度ずつ オリエンテーション スポーツライティングの世界 復習：先で取り上げる作品の概要を把握する
第2回	アスリートの表現力 「松井と長谷部」① バックグラウンドと主張 予習：課題文講読 復習：両者比較の見直し
第3回	アスリートの表現力 「松井と長谷部」② 同一テーマを語る論調の違いと読者の支持 予習：課題文講読 復習：両者比較の見直し
第4回	アスリートの表現力 「松井と長谷部」③ 人はアスリート本に何を求めるのか 予習：課題文講読 復習：「なりきり」穴埋め表の見直し
第5回	スポーツコラムを読む① コラムを構成する要素 予習：課題文講読 復習：コラム分析表の見直し
第6回	スポーツコラムを読む② 分析表にある「個人的体験」とは 予習：課題文講読 復習：コラム分析表の見直し
第7回	スポーツコラムを読む③ コラムを応用する。就職活動のヒント 予習：「私ならこう書く」アイデアをメモ 復習：コラム構成の検討
第8回	虫明亜呂無の世界① 虫明流の描写とは 予習：課題文講読 復習：描写を再読する
第9回	虫明亜呂無の世界② 描写と構成 予習：課題文講読 復習：構成を考え再読
第10回	虫明亜呂無の世界③ 主張しないで主張すること 予習：課題文講読 復習：ディテールの効果を考えて再読する
第11回	英文記事に挑む

	なぜ英語を読まなければならないか 予習：課題文講読 復習：課題文再読
第12回	「エピソード」考① スポーツ新聞から 予習：課題文講読 復習：具体性について考えながら課題文再読
第13回	「エピソード」考② 評伝を読む 予習：課題文講読 復習：課題文比較から得た結論の確認
第14回	「エピソード」考③ 「時の人」の書き方 予習：課題文講読

成績評価方法・基準	新聞記事提出や質問への口頭での回答など講義参加 60 %、取材者としてのアイデアを問う学期末試験 40 %を合計して評価する。
-----------	---

参考書	松井秀喜『エキストラ・イニシエス』文春文庫 長谷部誠『心を整える。』幻冬舎文庫 虫明亜呂無『肉体への憎しみ』筑摩書房
その他	内容が多岐にわたるため教科書はなし。毎回、講義内容に沿った参考書を 2、3 冊紹介する。
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	通信社で記者、デスクとして25年間勤務し、主にプロ野球、大リーグを担当。報道現場の動きや記者の基本動作をふまえて問題点を論じる。
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決方学習)／反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)／ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(1)／メディアコミュニケーション学部(2)／メディアコミュニケーション学部(3)／メディアコミュニケーション学部(4)／メディアコミュニケーション学部(5)／メディアコミュニケーション学部(6)／メディアコミュニケーション学部(7)／マス・コミュニケーション学科(1)／マス・コミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	清水 一彦(D-1101)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位			
年度	2020年度	科目名	出版論							
学期※2	2020年度前期			学校区分	大学					
科目群	マ2群			区分（授業形態）	週間授業					
副題	出版の歴史を通して出版の本質を知る。									
授業の概要	出版とはなにかという本質的なところからはじめ、印刷以前、以降、そして現在のデジタル化時代まで、おもに日本の出版活動を通じて世相に連させながら学ぶ。過去を知ることは、未来を知ることである。									
到達目標	出版形式と出版コンテンツの変容を社会背景を含めて通じて理解できるようになる。さらに出版の将来像を考察するための基礎知識と考え方を獲得する。この授業はおもに「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。」（メディアコミュニケーション学部）と「新しい国際化時代のコミュニケーション活動を担う、マスマディアに関する専門性を身につけている。」（マス・コミュニケーション学科）というディプロマ・ポリシーを到達目標とする。									

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容							
第1回	出版論Ⅰのオリエンテーション。出版とはなにか。 予習：シラバスに沿って、事前にテキスト、参考図書の該当部分を読んでおくこと。およそ100分。 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。およそ100分。						
第2回	口承から文字での伝達へ。出版のメディア論敵考察。 予習：シラバスに沿って、事前にテキスト、参考図書の該当部分を読んでおくこと。およそ100分。 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。およそ100分。						
第3回	出版の歴史①写本から印刷へ。 予習：シラバスに沿って、事前にテキスト、参考図書の該当部分を読んでおくこと。およそ100分。 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。およそ100分。						
第4回	出版の歴史②江戸期までの出版。 予習：シラバスに沿って、事前にテキスト、参考図書の該当部分を読んでおくこと。およそ100分。 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。およそ100分。						
第5回	出版の歴史③明治期から第二次世界大戦期まで。 予習：シラバスに沿って、事前にテキスト、参考図書の該当部分を読んでおくこと。およそ100分。 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。およそ100分。						
第6回	出版の歴史④大戦期前後の混亂期。 予習：シラバスに沿って、事前にテキスト、参考図書の該当部分を読んでおくこと。およそ100分。 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。およそ100分。						
第7回	戦後から現在までのベストセラー（書籍）。 予習：シラバスに沿って、事前にテキスト、参考図書の該当部分を読んでおくこと。およそ100分。 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。およそ100分。						
第8回	若者雑誌の変遷①平凡の時代。 予習：シラバスに沿って、事前にテキスト、参考図書の該当部分を読んでおくこと。およそ100分。 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。およそ100分。						
第9回	若者雑誌の変遷②平凡パンチの時代。 予習：シラバスに沿って、事前にテキスト、参考図書の該当部分を読んでおくこと。およそ100分。 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。およそ100分。						
第10回	若者雑誌の変遷③アンアンとボパイの創刊。 予習：シラバスに沿って、事前にテキスト、参考図書の該当部分を読んでおくこと。およそ100分。 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。およそ100分。						
第11回	若者雑誌の変遷④ライフスタイル雑誌の成立。 予習：シラバスに沿って、事前にテキスト、参考図書の該当部分を読んでおくこと。およそ100分。						

	復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。およそ100分。
第12回	若者雑誌の変遷⑤1990年代以降。 予習：シラバスに沿って、事前にテキスト、参考図書の該当部分を読んでおくこと。およそ100分。 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。およそ100分。
第13回	若者雑誌の変遷⑥若者の溶解と雑誌文化の変容。 予習：シラバスに沿って、事前にテキスト、参考図書の該当部分を読んでおくこと。およそ100分。 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。およそ100分。
第14回	デジタル化した時代の出版。これまでのまとめ。 予習：シラバスに沿って、事前にテキスト、参考図書の該当部分を読んでおくこと。およそ100分。 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。およそ100分。

成績評価方法・基準	期末テスト70%、平常点（履修態度）30%
	出版形式と出版コンテンツの変容を社会背景を含めて通史として、出版の本質を理解しているかどうかをおもな評価基準とする。
	秀：評価点数が90点以上で、本講義内容について優れた知識と深い理解力を身につけている。
	優：評価点数が80点から89点で、本講義内容について良好な知識と深い理解力を身につけている。
	良：評価点数が70点から79点で、本講義内容についての知識と理解力にやや不足がある。
	可：評価点数が60点から69点で、本講義内容についての知識と理解力が不足している。
	不可：学修態度に問題があり、評価点数が60点に満たない。さらに、本講義内容についての知識と理解力が明らかに不足している。

	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	『図説日本のメディア【新版】—伝統メディアはネットでどう変わるか』	藤竹暁 竹下俊郎編著	NHK出版	4140912537	
参考書	赤木洋一『「アンアン」1970』平凡社 2007年 740円 ISBN-10: 4582853587 椎根和『popeye物語』新潮社 2008年1575円 ISBN-10: 4103066717 阪本博『『平凡』の時代』昭和堂 2008年 ISBN-10: 481220822X 浜崎廣著『雑誌の死に方一“生き物”としての雑誌、その生態学』出版ニュース社 1998年 2420円 ISBN-10: 4785200790 浜崎廣著『女性誌の源流』出版ニュース社 2004年 4762円 ISBN-10: 4785201118 難波功士著『族の系譜学』青弓社 2007年 2756円 ISBN-10: 4787232738 富川淳子著『ファッショントレンド』北樹出版 2017年 1836円 ISBN-10: 4779305411 吉田則昭編『雑誌メディアの文化史 増補版』森話社 2017年 ISBN-10: 486405116X 植田康夫『雑誌は見ていた。』水曜社 2009年 2090円 ISBN-10: 488065225 佐藤卓己『キングの時代—国民大衆雑誌の公共性』岩波書店 2020年 1936円 ISBN-10: 4006004141 ほか、授業中にも紹介する。				
その他	授業内容などへの質問は、授業内で適宜フィードバックする。 本科目だけでも受講はできるが、出版論Ⅰと出版論Ⅱの両方で出版についての全体像がわかるようになっている。出版論Ⅱも受講することを推奨する。				
参考URL					

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	三井物産、朝日新聞社記者を経て、平凡出版（現・マガジンハウス）にて『POPEYE』『Tarzan』『relax』等を担当
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(7)/マス・コミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	清水 一彦(D-1101)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2020年度	科目名	出版論II				
学期※2	2020年度後期			学校区分	大学		
科目群	マ2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	出版の本質と編集工程および、出版活動と社会との関連を理解する。						
授業の概要	おもに出版物の編集・制作工程と、出版活動にかかるビジネス、法律、倫理などに焦点をあて講義をすすめる。出版は利益を生み出すことだけが目的の産業ではない。とはいっても、利益がなければ、出版活動は継続できない。これまでとデジタル化が進行する現時点での文化産業としての産業構造を学ぶ。						
到達目標	印刷物や電子出版としての出版コンテンツの制作工程および産業構造を社会背景を含めて理解できるようになる。さらに、デジタル化している出版産業について考察するための基礎知識と考え方を習得する。この授業はおもに「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけていく。」（メディアコミュニケーション学部）と「新しい国際化時代のコミュニケーション活動を担う、マスマディアに関する専門性を身につけていく。」（マス・コミュニケーション学科）というディプロマ・ポリシーを到達目標とする。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容

第1回	出版の産業構造と現況。 予習：シラバスに沿って、事前にテキスト、参考図書の該当部分を読んでおくこと。およそ100分。 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。およそ100分。
第2回	出版物の多様性。 予習：シラバスに沿って、事前にテキスト、参考図書の該当部分を読んでおくこと。およそ100分。 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。およそ100分。
第3回	編集の流れ①編集部の仕事。 予習：シラバスに沿って、事前にテキスト、参考図書の該当部分を読んでおくこと。およそ100分。 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。およそ100分。
第4回	編集の流れ② 出版における企画の成り立ち。台割の読み方。ノンブルとページの概念の違いなどを学ぶ。 予習：シラバスに沿って、事前にテキスト、参考図書の該当部分を読んでおくこと。およそ100分。 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。およそ100分。
第5回	編集の流れ③フォントの話。 予習：シラバスに沿って、事前にテキスト、参考図書の該当部分を読んでおくこと。およそ100分。 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。およそ100分。
第6回	編集の流れ④誌面・書籍デザイン、DTPについて理解する。 予習：シラバスに沿って、事前にテキスト、参考図書の該当部分を読んでおくこと。およそ100分。 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。およそ100分。
第7回	編集の流れ⑤イラスト、写真。現在の出版はテキスト+ヴィジュアルから成り立つ。その一方の要素であるヴィジュアルについて学ぶ。 予習：シラバスに沿って、事前にテキスト、参考図書の該当部分を読んでおくこと。およそ100分。 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。およそ100分。
第8回	編集の流れ⑥印刷、装丁、製本など物質としての出版物とデジタル化した出版物の商品化過程を理解する。 予習：シラバスに沿って、事前にテキスト、参考図書の該当部分を読んでおくこと。およそ100分。 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。およそ100分。
第9回	表現の自由と出版。 予習：シラバスに沿って、事前にテキスト、参考図書の該当部分を読んでおくこと。およそ100分。 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。およそ100分。
第10回	著作権の歴史とその仕組み。 予習：シラバスに沿って、事前にテキスト、参考図書の該当部分を読んでおくこと。およそ100分。 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。およそ100分。
第11回	出版ビジネスの現場①著作権とライツビジネス。

	予習：シラバスに沿って、事前にテキスト、参考図書の該当部分を読んでおくこと。およそ100分。 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。およそ100分。
第12回	出版ビジネスの現場②出版流通。再版委託制、取次、書店。アマゾン。電子出版。 予習：シラバスに沿って、事前にテキスト、参考図書の該当部分を読んでおくこと。およそ100分。 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。およそ100分。
第13回	出版ビジネスの現場③雑誌広告ビジネスの仕組み。 予習：シラバスに沿って、事前にテキスト、参考図書の該当部分を読んでおくこと。およそ100分。 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。およそ100分。
第14回	出版ビジネスの現場④出版物を売るための宣伝の仕組み。 出版論Ⅱのこれまでのまとめ。 予習：シラバスに沿って、事前にテキスト、参考図書の該当部分を読んでおくこと。およそ100分。 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。およそ100分。

成績評価方法・基準	期末テスト70%、平常点（履修態度）30% 出版の本質と編集工程および、出版活動と社会との関連を理解できているかどうかをおもな評価基準とする。 秀：評価点数が90点以上で、本講義内容について優れた知識と深い理解力とを身につけている。 優：評価点数が80点から89点で、本講義内容について良好な知識と深い理解力とを身につけている。 良：評価点数が70点から79点で、本講義内容についての知識と理解力にやや不足がある。 可：評価点数が60点から69点で、本講義内容についての知識と理解力が不足している。 不可：学修態度に問題があり、評価点数が60点に満たない。さらに、本講義内容についての知識と理解力が明らかに不足している。
-----------	--

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『図説 日本のメディア [新版]—伝統メディアはネットでどう変わるか』	藤竹暁 竹下俊郎編著	NHK出版	4140912537	
参考書	川井良介編『出版メディア入門 第2版』日本両論社 2012年 2970円 ISBN-10: 4535586160 日本出版学会『白書出版産業』文化通信社 2010年 3080円 ISBN-10: 4938347245 『出版指標年報』全国出版協会出版科学研究所 2020年 2020年初夏までには発行される予定。 電通メディアアイノベーションラボ『情報メディア白書』ダイヤモンド社 2020年 2020年初夏までには発行される予定。 ほか、授業中にも紹介する。			
その他	授業内容などへの質問は、授業内で適宜フィードバックする。 本科目だけでも受講はできるが、出版論Ⅰと出版論Ⅱの両方で出版についての全体像がわかるようになっている。出版論Ⅰも受講することを推奨する。			
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	三井物産、朝日新聞社記者を経て、平凡出版（現・マガジンハウス）にて『POPEYE』『Tarzan』『relax』等を担当
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(7)/マス・コミュニケーション学科(1)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	清水 一彦(D-1101)			履修開始年次	1年	単位※1	2単位					
年度	2020年度	科目名	ことばと表現（書きことば）/文章表現の基礎									
学期※2	2020年度後期			学校区分	大学							
科目群	マ2群			区分（授業形態）	週間授業							
副題	マスコミュニケーションとしての読者がいる原稿を書くためのトレーニング。											
授業の概要	マスコミの現場で使える文章力を養うために、徹底的なトレーニングをします。将来、マスコミで活躍したいと考えている学生向けの授業です。授業は、アクティブラーニングとなります。											
到達目標	毎回1冊本を読んでくること。作文の課題も毎回出します。読まなければ、書けません。いい音楽を聴いたことがない人には、作曲ができないのと同じです。おいしい料理をたべたことがなければ、一流のシェフになれません。文章を書くための専門性を獲得するためには、知識と実践の両方が必要です。			読者を想定し、その読者が共感し納得する原稿を書けるようになります。この授業はおもに「知識と体験を基に、批判的かつ洞察的に思考し判断することができる。」（メディアコミュニケーション学部）と「現代社会に溢れる情報を「正確にとらえ、的確に伝える」ことができる。」（マス・コミュニケーション学科）というディプロマ・ポリシーを到達目標とする。								

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容

第1回	ガイダンス。 本を1冊読む時間と原稿を1本仕上げるための時間が予習・復習となります。半期2単位の授業外学習時間は通常200分程度ですが、この授業は学習内容の特性上、それ以上になります。
第2回	自己紹介。他己紹介。プレゼンテーションの導入的トレーニング。 前回から今回までの間に読んだ本を書評にして読み上げ発表。 本を1冊読む時間と原稿を1本仕上げるための時間が予習・復習となります。半期2単位の授業外学習時間は通常200分程度ですが、この授業は学習内容の特性上、それ以上になります。
第3回	他己紹介の原稿。読者を想定した文章を書いてみる。 前回から今回までの間に読んだ本を書評にして読み上げ発表。 本を1冊読む時間と原稿を1本仕上げるための時間が予習・復習となります。半期2単位の授業外学習時間は通常200分程度ですが、この授業は学習内容の特性上、それ以上になります。
第4回	正確な情報の伝え方。ことばの社会的レベル。ロジック。構造。読者がいる原稿に必要なこと。 前回から今回までの間に読んだ本を書評にして読み上げ発表。 本を1冊読む時間と原稿を1本仕上げるための時間が予習・復習となります。半期2単位の授業外学習時間は通常200分程度ですが、この授業は学習内容の特性上、それ以上になります。
第5回	5W2H。原稿に織り込むべき基本的情報を知る。 前回から今回までの間に読んだ本を書評にして読み上げ発表。 本を1冊読む時間と原稿を1本仕上げるための時間が予習・復習となります。半期2単位の授業外学習時間は通常200分程度ですが、この授業は学習内容の特性上、それ以上になります。
第6回	5W2H+α。αとはなにかを知る。 前回から今回までの間に読んだ本を書評にして読み上げ発表。 本を1冊読む時間と原稿を1本仕上げるための時間が予習・復習となります。半期2単位の授業外学習時間は通常200分程度ですが、この授業は学習内容の特性上、それ以上になります。
第7回	書生。写生をするように、ことばで風景を描写する練習。 前回から今回までの間に読んだ本を書評にして読み上げ発表。 本を1冊読む時間と原稿を1本仕上げるための時間が予習・復習となります。半期2単位の授業外学習時間は通常200分程度ですが、この授業は学習内容の特性上、それ以上になります。
第8回	取材1。企画の立て方を学ぶ。プレーンストーミングを練習する。 前回から今回までの間に読んだ本を書評にして読み上げ発表。 本を1冊読む時間と原稿を1本仕上げるための時間が予習・復習となります。半期2単位の授業外学習時間は通常200分程度ですが、この授業は学習内容の特性上、それ以上になります。
第9回	取材2。事前取材の方法を学ぶ。 前回から今回までの間に読んだ本を書評にして読み上げ発表。

	本を1冊読む時間と原稿を1本仕上げるための時間が予習・復習となります。半期2単位の授業外学習時間は通常200分程度ですが、この授業は学習内容の特性上、それ以上になります。
第10回	取材3。取材。インタビュー。取材対象にどのようにコミュニケーションするのかを学ぶ。 前回から今回までの間に読んだ本を書評にして読み上げ発表。 本を1冊読む時間と原稿を1本仕上げるための時間が予習・復習となります。半期2単位の授業外学習時間は通常200分程度ですが、この授業は学習内容の特性上、それ以上になります。
第11回	構成。推敲。原稿を書く前、書いた後に必要なステップを理解する。 前回から今回までの間に読んだ本を書評にして読み上げ発表。 本を1冊読む時間と原稿を1本仕上げるための時間が予習・復習となります。半期2単位の授業外学習時間は通常200分程度ですが、この授業は学習内容の特性上、それ以上になります。
第12回	校正。校閲。正しい情報を伝えているのかを確認する。 前回から今回までの間に読んだ本を書評にして読み上げ発表。 本を1冊読む時間と原稿を1本仕上げるための時間が予習・復習となります。半期2単位の授業外学習時間は通常200分程度ですが、この授業は学習内容の特性上、それ以上になります。
第13回	書評。自分の嗜好をどうやったら読者に論理的に伝えられるのかを学ぶ。 前回から今回までの間に読んだ本を書評にして読み上げ発表。 本を1冊読む時間と原稿を1本仕上げるための時間が予習・復習となります。半期2単位の授業外学習時間は通常200分程度ですが、この授業は学習内容の特性上、それ以上になります。
第14回	エッセイ。これまでの学習のまとめ。自分自身の考え方や嗜好、志向を織り交ぜた、さらに読書が読んで楽しい文章を書いてみる。 前回から今回までの間に読んだ本を書評にして読み上げ発表。 本を1冊読む時間と原稿を1本仕上げるための時間が予習・復習となります。半期2単位の授業外学習時間は通常200分程度ですが、この授業は学習内容の特性上、それ以上になります。

成績評価方法・基準	課題を50点。読者を想定し、その読者が共感し納得する原稿になっているかどうかを評価基準とする。 授業への積極的参加度合いを50点。 計100満点で評価します。 秀：評価点数が90点以上で、本講義内容について優れた知識と深い理解力を身につけている。 優：評価点数が80点から89点で、本講義内容について良好な知識と深い理解力を身につけている。 良：評価点数が70点から79点で、本講義内容についての知識と理解力にやや不足がある。 可：評価点数が60点から69点で、本講義内容についての知識と理解力が不足している。 不可：学修態度に問題があり、評価点数が60点に満たない。さらに、本講義内容についての知識と理解力が明らかに不足している。
-----------	---

参考書	野村進著 調べる技術・書く技術 講談社現代新書 800円（税別） ISBN 9784062879408
その他	1回目の授業に出席しないと、この授業は受講できません。 授業の性質上、受講入数に制限があります（最大15名程度）。 別科目的「ことばと表現（話すことば）」も受講することを前提に授業を進めます。 また、学生の学修進捗にあわせて授業を展開するので、シラバスと授業内容がずれることがあります。 読む本は、その都度指示します。
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	三井物産、朝日新聞社記者を経て、平凡出版（現・マガジンハウス）にて『POPEYE』『Tarzan』『relax』等を担当
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート／プレゼンテーション
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(3)/マス・コミュニケーション学科(1)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	清水 一彦(D-1101)			履修開始年次	1年	単位※1	2単位			
年度	2020年度	科目名	ことばと表現（話すことば）							
学期※2	2020年度後期			学校区分	大学					
科目群	マ2群			区分（授業形態）	週間授業					
副題	説得力があるプレゼンテーションができるようになるためのトレーニング。									
授業の概要	マスコミの現場で使えるプレゼンテーション力を養うために、徹底的なトレーニングをします。授業は、毎回、アクティブラーニングとなります。将来、マスコミで活躍したい学生向けの授業です。 有効なプレゼンテーションをするための専門性を獲得するためには、知識と実践の両方が必要です。その前提として、毎回1冊本を読んでくること。インプットがないとアウトプットはありません。									
到達目標	オーディエンスを想定し、そのオーディエンスが納得するプレゼンテーションができるようになる。この授業はおもに「知識と体験を基に、批判的かつ洞察的に思考し判断することができる。」（メディアコミュニケーション学部）と「現代社会に溢れる情報を「正確にとらえ、的確に伝える」ことができる。」（マス・コミュニケーション学科）というディプロマ・ポリシーを到達目標とする。									

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	ガイダンス。 読まなければ、話せません。いい音楽を聴いたことがない人は、作曲ができないのと同じです。おいしい料理をたべたことがなければ、一流のシェフになれません。毎回、本を1冊読んでくること。 したがって、本を1冊読む時間と原稿を1本仕上げるための時間が予習・復習となります。半期2単位の授業外学習時間は通常200分程度ですが、この授業は学習内容の特性上、それ以上になります。
第2回	1分間プレゼンテーションの構成。プレゼンテーションの導入的トレーニング。 前回から今回までの間に読んだ本についての口頭プレゼンテーション。 本を1冊読む時間と原稿を1本仕上げるための時間が予習・復習となります。半期2単位の授業外学習時間は通常200分程度ですが、この授業は学習内容の特性上、それ以上になります。
第3回	日常会話とプレゼンテーションの差。ことばの社会的レベルを知り、実践できるようになる。 前回から今回までの間に読んだ本についての口頭プレゼンテーション。 本を1冊読む時間と原稿を1本仕上げるための時間が予習・復習となります。半期2単位の授業外学習時間は通常200分程度ですが、この授業は学習内容の特性上、それ以上になります。
第4回	音声表現での正確な情報の伝え方。文章表現と音声表現の差を知る。 前回から今回までの間に読んだ本についての口頭プレゼンテーション。 本を1冊読む時間と原稿を1本仕上げるための時間が予習・復習となります。半期2単位の授業外学習時間は通常200分程度ですが、この授業は学習内容の特性上、それ以上になります。
第5回	朗読。通る声を出す練習。 前回から今回までの間に読んだ本についての口頭プレゼンテーション。 本を1冊読む時間と原稿を1本仕上げるための時間が予習・復習となります。半期2単位の授業外学習時間は通常200分程度ですが、この授業は学習内容の特性上、それ以上になります。
第6回	音声表現での描写。 前回から今回までの間に読んだ本についての口頭プレゼンテーション。 本を1冊読む時間と原稿を1本仕上げるための時間が予習・復習となります。半期2単位の授業外学習時間は通常200分程度ですが、この授業は学習内容の特性上、それ以上になります。
第7回	敬語表現。実際につかえるように訓練する。 前回から今回までの間に読んだ本についての口頭プレゼンテーション。 本を1冊読む時間と原稿を1本仕上げるための時間が予習・復習となります。半期2単位の授業外学習時間は通常200分程度ですが、この授業は学習内容の特性上、それ以上になります。
第8回	取材1。企画の立て方を学ぶ。 前回から今回までの間に読んだ本についての口頭プレゼンテーション。 本を1冊読む時間と原稿を1本仕上げるための時間が予習・復習となります。半期2単位の授業外学習時間は通常200分程度ですが、この授業は学習内容の特性上、それ以上になります。
第9回	取材2。取材。インタビュー。実践的な方法論を学ぶ。

	<p>前回から今までの間に読んだ本についての口頭プレゼンテーション。</p> <p>本を1冊読む時間と原稿を1本仕上げるための時間が予習・復習となります。半期2単位の授業外学習時間は通常200分程度ですが、この授業は学習内容の特性上、それ以上になります。</p>
第10回	<p>オーディエンスは誰か。聞いてもらうための技術。</p> <p>前回から今までの間に読んだ本についての口頭プレゼンテーション。</p> <p>本を1冊読む時間と原稿を1本仕上げるための時間が予習・復習となります。半期2単位の授業外学習時間は通常200分程度ですが、この授業は学習内容の特性上、それ以上になります。</p>
第11回	<p>構成。推敲。音声での発表の組み立てかた。</p> <p>前回から今までの間に読んだ本についての口頭プレゼンテーション。</p> <p>本を1冊読む時間と原稿を1本仕上げるための時間が予習・復習となります。半期2単位の授業外学習時間は通常200分程度ですが、この授業は学習内容の特性上、それ以上になります。</p>
第12回	<p>パワーポイントをつかってのプレゼンテーションの練習。</p> <p>前回から今までの間に読んだ本についての口頭プレゼンテーション。</p> <p>本を1冊読む時間と原稿を1本仕上げるための時間が予習・復習となります。半期2単位の授業外学習時間は通常200分程度ですが、この授業は学習内容の特性上、それ以上になります。</p>
第13回	<p>ビブリオバトル。いかにオーディエンスを巻き込むかの練習。</p> <p>前回から今までの間に読んだ本についての口頭プレゼンテーション。</p> <p>本を1冊読む時間と原稿を1本仕上げるための時間が予習・復習となります。半期2単位の授業外学習時間は通常200分程度ですが、この授業は学習内容の特性上、それ以上になります。</p>
第14回	<p>物語を語る。</p> <p>前回から今までの間に読んだ本についての口頭プレゼンテーション。</p> <p>本を1冊読む時間と原稿を1本仕上げるための時間が予習・復習となります。半期2単位の授業外学習時間は通常200分程度ですが、この授業は学習内容の特性上、それ以上になります。</p>

成績評価方法・基準	<p>課題を50点。オーディエンスを想定し、そのオーディエンスが納得するプレゼンテーションができるようになっているかどうかを評価基準とする。 授業への積極的参加度合いを50点。 計100満点で評価します。</p> <p>秀： 評価点数が90点以上で、本講義内容について優れた知識と深い理解力を身につけている。 優： 評価点数が80点から89点で、本講義内容について良好な知識と深い理解力を身につけている。 良： 評価点数が70点から79点で、本講義内容についての知識と理解力にやや不足がある。 可： 評価点数が60点から69点で、本講義内容についての知識と理解力が不足している。 不可： 学修態度に問題があり、評価点数が60点に満たない。さらに、本講義内容についての知識と理解力が明らかに不足している。</p>
-----------	---

参考書	野村進著 調べる技術・書く技術 講談社現代新書 800円（税別） ISBN 9784062879408
その他	<p>1回目の授業に出席しないと、この授業は受講できません。 授業の性質上、受講人数に制限があります（最大15名程度）。 別科目的「ことばと表現（書きことば）」も受講することを前提に授業を進めます。</p> <p>また、学生の学修進歩にあわせて授業を展開するので、シラバスと授業内容がずれることがあります。</p>
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	三井物産、朝日新聞社記者を経て、平凡出版（現・マガジンハウス）にて『POPEYE』『Tarzan』『relax』等を担当
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート／プレゼンテーション
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(3)／マス・コミュニケーション学科(1)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	廣田 有里(D-1004)			履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2020年度	科目名	Webデザイン/Webデザイン論				
学期※2	2020年度後期			学校区分	大学		
科目群	情2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	コンセプトから運用までWeb制作の知識を学ぶ						
授業の概要	<p>インターネットの普及に伴い、様々な情報がWebページで伝えられている。今後、社会では情報を受けるだけでなく、発信する側になる力も必要になってくる。</p> <p>Webは、本や雑誌、テレビなど従来の媒体に比べて複雑な構造をしているため、情報をユーザにとって分かりやすい形で提示できるようにデザインすることが重要である。中でも、Webサイトで「誰に何を伝えたいか」と「どのように提示するか」を考慮する設計をするべきである。</p> <p>本講義では、Webサイトのデザインにおいて、コンセプトメイキングから制作・テスト・評価・運用を行うための知識と技術を学ぶことを目的とする。実際に、自分でテーマを決めてWebサイトをデザインし、構築する演習を行う。</p>						
到達目標	<p>この科目は、メディアコミュニケーション学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。」及び「コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる。」というディプロマ・ポリシーに関連し、Webサイトのデザインを例として、情報発信の基本スキルを身につける。</p> <p>具体的には、以下の3点を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 情報をデザインすることの重要性を学び、設計に生かすことができる。 (2) Webサイトを作成する基本的な技術（HTML・CSS）を習得する。 (3) ユーザビリティを考慮したWebサイトを作成することができる。 						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容

第1回	オリエンテーション・インターネットの基礎 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第2回	情報をデザインする重要性・Webサイトの目的とデザイン 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第3回	情報の組織化と構造化 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第4回	素材の制作～デジタル素材とアナログ素材～ 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第5回	素材の制作～写真と文字と動画～ 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第6回	Webサイトの制作環境 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第7回	HTMLの基礎 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第8回	CSSの基礎 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第9回	文書要素の制御 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第10回	文字の装飾とフォームの設定 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第11回	CSSを用いたレイアウト 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第12回	Webを構成する言語と規格 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分）

	復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第13回	Webサイトの運用 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第14回	知的財産権 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）

成績評価方法・基準	実習の課題提出（60%）（1～6,12～14回目→到達目標（1）（3）、6～11回目→到達目標（2）を授業内で確認） 平常点（10%）（課題への取り組みと授業での発言） 筆記試験（30%）（到達目標の（1）（2）（3）を筆記試験で確認）
-----------	--

参考書	入門Webデザイン [改訂第三版] CG-ARTS協会（出版）
その他	パソコンを持参すること
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	ソフトウェア企業に入社し、10余年にわたり卸・流通業向けのシステム開発
学生を主体とする教育方法の実践	実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(2)／メディアコミュニケーション学部(4)／メディアコミュニケーション学部(6)／メディアコミュニケーション学部(7)／情報文化学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	廣田 有里(D-1004)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2020年度	科目名	情報ネットワーク/情報ネットワーク論				
学期※2	2020年度前期			学校区分	大学		
科目群	情2群			区分 (授業形態)	週間授業		
副題	インターネットのしくみとネットワーク社会						
授業の概要	<p>スマートフォンでメールをしたり、インターネットでこれから訪問する会社の情報を調べたりなど、情報ネットワークは私たちの生活に欠かせないインフラになっている。最近は、企業の発信する情報を受けるだけでなく、ブログやTwitter、Facebookを通してユーザ自身が積極的に情報発信することも盛んである。積極的なネットワーク活用には、ネットワークの基本的なしくみや頻繁に出てくる技術用語を理解している必要がある。</p> <p>本講義では、ネットワークの中を情報がどのような形で流れ、どのようなしくみで相手に伝達されるかを技術的な面から理解する。また、ネットコミュニケーションがどのように発達し、生活に利用されているかを学ぶ。</p>						
到達目標	<p>この科目は、メディアコミュニケーション学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。」及び「コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる。」というディプロマ・ポリシーに関連し、以下の2項目を身に着けることができる。</p> <p>(1) インターネットの情報伝達のしくみを理解し、簡単なネットワークの診断を行うことができる。</p> <p>(2) 社会の中で、インターネットがどのように利用されているかを知り、メリット・デメリットを理解した上で適切に利用できるようになる。</p>						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容							
第1回	オリエンテーション コンピュータとネットワークの発展 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）						
第2回	ネットワークの基礎知識 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）						
第3回	アナログ通信とデジタル通信 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）						
第4回	TCP/IPの基礎 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）						
第5回	プロトコルと階層モデル 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）						
第6回	データリンクの技術 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）						
第7回	IPの機能としくみ－IPプロトコル 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）						
第8回	IPに関する技術 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）						
第9回	トランスポート層の役割－TCPとUDP 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）						
第10回	パケットの経路を決めるルーティングプロトコル 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）						
第11回	インターネットのアプリケーション 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）						
第12回	インターネットにつなぐためのブロードバンドネットワーク 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）						
第13回	情報セキュリティ						

	予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第14回	インターネットによる社会の変化 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）

成績評価方法・基準	実習の課題提出（50%）（2～11回目の課題→到達目標（1）、1,12～14回目→到達目標（2）を授業内で確認） 平常点（10%）（授業に取り組む姿勢と発言） 筆記試験（40%）（到達目標の（1）（2）を筆記試験で確認）
-----------	--

参考書	マスタリングTCP/IP 入門編 竹下隆史、村山公保、荒井透、苅田幸雄（著） オーム社（出版社）
その他	パソコン持参
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	ソフトウェア企業に入社し、10余年にわたり卸・流通業向けのシステム開発
学生を主体とする教育方法の実践	実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(2)／メディアコミュニケーション学部(4)／メディアコミュニケーション学部(6)／メディアコミュニケーション学部(7)／情報文化学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	廣田 有里(D-1004)			履修開始年次	カリキュラムにより異なります。	単位※1	2単位						
年度	2020年度	科目名	e-コマースシステム/e-コマースシステム										
学期※2	2020年度後期			学校区分	大学								
科目群	情2群			区分（授業形態）	週間授業								
副題	eコマース入門												
授業の概要	<p>eコマースとは、商品に関する情報の提供から、受注・納品にいたるビジネスプロセスを電子化して行う商取引のことである。eコマースの市場規模は、急速に拡大ってきており、これには、インターネット人口の増加と共に、さまざまな技術的な進歩が貢献している。</p> <p>本講義では、前半はeコマースの基本から、ユーザビリティ、コンテンツ・デザインなどのサイトを構築するための知識、インターネットマーケティングの基本的な技術を学び、後半はグループワークで店舗の企画を行い、企画内容のプレゼンテーションを行うことにより、eコマースサイトを企画・運営する力を身につけることを目的とする。</p>												
到達目標	<p>この科目は、メディアコミュニケーション学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。」及び「コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる。」というディプロマ・ポリシーに関連し、以下の4項目を身に着けることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) eコマースの基本的なしくみ、発展の歴史、関連する法律を理解する。 (2) eコマースを支えるマーケティングの基本を理解する。 (3) eコマース形態の1つであるネットショップの企画・制作・運営の手順を理解するコンセプトを作成できるようになる。 (4) 考えたコンセプトやサイトの特徴を、プレゼンを行い相手に伝えることができる。 												

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容

第1回	オリエンテーション、eコマースとは 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：授業で提示されたサイトを例にして、自分が普段利用するeコマースについて特徴をまとめる（100分）
第2回	eコマースのビジネス環境 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：授業で提示されたビジネスモデルを例にして、類似するサイトを調査して特徴をまとめる（100分）
第3回	ネットショップの出店形態と特徴 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：授業で提示された出店形態のうち特にASPサービスについて、いくつかのサービスを調査して特徴をまとめる（100分）
第4回	電子決済とセキュリティ、法律について 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：電子決済の方法について、身近な方法を調査して特徴をまとめる（100分）
第5回	ユーザビリティとデザイン 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：授業で提示されたユーザビリティチェック項目をもとに、よく使用するサイトを調査してチェックの結果を検討しまとめる（100分）
第6回	インターネットマーケティング 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：授業で提示した企業を例にして、ブランディングに成功した企業を調査して戦略をまとめる（100分）
第7回	インターネット広告と販売 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：授業で提示されたマーケティングを例にして、実際にGoogleアナリティクスを使用して調査し結果をまとめる（100分）
第8回	ネットショップのプロモーション 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：授業で提示されたプロモーションを例にして、サービスを提供するサイトを1つ取り上げて調査して特徴をまとめる（100分）
第9回	ネットショップの企画－商材の選択・競合調査 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：授業で提示された調査方法を例にして、類似する商品を販売するサイトを調査して特徴をまとめる（100分）
第10回	ネットショップの企画－サイトコンセプト 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：授業で提示されたサイトコンセプトを例にして、自分たちのサイトのコンセプトをまとめる（100分）
第11回	ネットショップの企画－プレゼンテーション 予習：商材の選択・競合調査の結果・サイトコンセプトの決定をまとめてプレゼンテーションの準備をする（100分） 復習：自分たちのサイトコンセプトについての評価を受け、ネットショップの企画を修正完成させる（100分）
第12回	ネットショップの制作－サイトのデザインの構築 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分）

	復習：授業で提示されたサイト構築方法で、サイトのデザインを構築する（100分）
第13回	ネットショップの制作－画像の加工と商材の登録 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：授業で提示された画像の書こうと商材の登録方法で、サイトの画像と商品の登録を行う（100分）
第14回	ネットショップの運用 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：授業で提示されたサイトの運用モデルを例にして、自分たちのサイトの運用モデルを作成しまとめる（100分）

成績評価方法・基準	実習の課題提出（50%）（1～5回目の課題→到達目標（1）、6～8回目→到達目標（2）、9～13回目→到達目標（3）、11回目のプレゼンテーション→到達目標（4）を授業内で確認） 筆記試験（40%）（到達目標の（1）（2）を筆記試験で確認） 平常点（10%）（課題への取り組みとグループワークでの発言）
-----------	---

参考書	改訂版ネットショップ検定公式テキスト ネットショップ実務士レベル1対応 一般財団法人ネットショップ能力認定機構（著）日本能率協会マネジメントセンター（出版） ネットマーケティング検定公式テキストインターネットマーケティング 基礎編 藤井裕之（著） インプレス（出版）
その他	パソコンを持参すること
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	ソフトウェア企業に入社し、10余年にわたり卸・流通業向けのシステム開発
学生を主体とする教育方法の実践	グループワーク／プレゼンテーション
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(2)／メディアコミュニケーション学部(4)／メディアコミュニケーション学部(6)／メディアコミュニケーション学部(7)／情報文化学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	廣田 有里(D-1004)			履修開始年次	3年	単位※1	2単位			
年度	2020年度	科目名	Webサービス開発/情報文化特講III							
学期※2	2020年度前期			学校区分	大学					
科目群	情2群			区分(授業形態)	週間授業					
副題	PythonによるWebサービス開発									
授業の概要	<p>Webサービスとは、ユーザーがWebブラウザを通して利用できるサービスを提供する仕組みである。Pythonは汎用性が高く、機械学習やIoTなどの標準言語としても利用され注目の言語である。</p> <p>本講義では、Pythonのフレームワークの1つである「Django（.djangoproject）」を使用することにより、様々な機能を持つWebサービスの構築方法を学ぶことができる。</p>									
到達目標	<p>この科目は、メディアコミュニケーション学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。」及び「コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる。」というディプロマ・ポリシーに関連し、Webサービスの開発を通じて以下の3点を習得することを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) Webサービスとは何かを理解する。 (2) 基本的なWebサービス開発方法を習得する。 (3) Python APIを活用する応用力を身につける。 									

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容							
第1回	オリエンテーション、Webサービスとは 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：Webサービスの種類と使用する言語を調べ、Webサービスとは何かを説明することができるようノートにまとめる（100分）						
第2回	Djangoの概要、開発環境の作成 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、作業手順を整理してノートにまとめる（100分） 復習：PythonとDjangoをインストールし、開発環境の準備が完了している（100分）						
第3回	投票アプリの作成－プロジェクトの作成－ 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、作業手順を整理してノートにまとめる（100分） 復習：Djangoでのプロジェクトの作成方法とファイル構成を理解し、プロジェクトを作成することができるようになる（100分）						
第4回	投票アプリの作成－データベースの設定－ 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、作業手順を整理してノートにまとめる（100分） 復習：Djangoでデータベースの設定方法を理解し、プロジェクトにデータベースの設定を行うことができるようになる（100分）						
第5回	投票アプリの作成－オーバービュー－ 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、作業手順を整理してノートにまとめる（100分） 復習：Djangoでのビューの作成方法を理解し、プロジェクトにビューを追加することができるようになる（100分）						
第6回	投票アプリの作成－フォームの作成－ 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、作業手順を整理してノートにまとめる（100分） 復習：Djangoでのフォームの作成方法を理解し、簡単なフォームの作成を行うことができるようになる（100分）						
第7回	投票アプリの作成－テスト設計－ 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、作業手順を整理してノートにまとめる（100分） 復習：テスト設計の基本を理解し、Djangoでのテスト作成を行うことができるようになる（100分）						
第8回	投票アプリの作成－カスタマイズ－ 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、作業手順を整理してノートにまとめる（100分） 復習：Djangoでのアプリ構造のカスタマイズを行うことができるようになる（100分）						
第9回	再利用可能なアプリケーションの作成 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、作業手順を整理してノートにまとめる（100分） 復習：再利用可能なアプリケーションの考え方を理解し、Djangoでの再利用可能なアプリケーションの作成ができるようになる（100分）						
第10回	ソースコードの管理 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：プロジェクトにおけるソースコードの管理方法を理解し、適切な管理を行えるようになる（100分）						
第11回	オリジナルWebサービスの作成－アプリの構成と設定－ 予習：自分の作りたいWebアプリを考えて画面設計をラフでまとめておく（100分） 復習：前回作成したアプリをもとに、オリジナルアプリを作成するためのプロジェクト作成と設定を行うことができる（100分）						
第12回	オリジナルWebサービスの作成－データベースの設定－ 予習：自分の作りたいWebアプリのデータベース設計を考えてまとめておく（100分） 復習：前回作成したアプリをもとに、オリジナルアプリを作成するためのデータベース設計を行うことができる（100分）						

第13回	オリジナルWebサービスの作成－ビューの作成－ 予習：自分の作りたいWebアプリの処理設計からビューを考えてまとめておく（100分） 復習：前回作成したアプリをもとに、オリジナルアプリを作成するためのビューの作成を行うことができる（100分）
第14回	オリジナルWebサービスの作成－フォームの作成－ 予習：自分の作りたいWebアプリの画面設計からフォームを考えてまとめておく（100分） 復習：前回作成したアプリをもとに、オリジナルアプリを作成するためのフォームの作成を行い、オリジナルのWebサービスを動作させることができる（100分）

成績評価方法・基準	実習の課題提出（60%）（1回目→到達目標（1）、2回目→到達目標（2）3～14回目→到達目標（2）（3）を授業内で確認） 最終課題（30%）（到達目標（3）を確認） 平常点（10%）（課題への取り組みと授業での発言）
-----------	---

参考書	現場で使える基礎 Django akiyoko（著） 技術書典（出版社） Djangoドキュメント (https://docs.djangoproject.com/ja/3.0/) Python3 + Django2.0入門 - Pythonで作るWebアプリケーション開発入門1～3 ナカノヒトシ（著） Amazon Services International, Inc. (販売元)
その他	パソコン持参
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	ソフトウェア企業に入社し、10余年にわたり卸・流通業向けのシステム開発
学生を主体とする教育方法の実践	実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(2)／メディアコミュニケーション学部(4)／メディアコミュニケーション学部(6)／メディアコミュニケーション学部(7)／情報文化学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	八木 徹 (D-0103)、渡邊寿雄(H-0052)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2020年度	科目名	プログラミングI				
学期※2	2020年度前期			学校区分	大学		
科目群	情2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	Pythonによるプログラミング：基本						
授業の概要	<p>近年広く利用されているプログラム言語であるPythonを用い、「プログラミング基礎」での体験をふまえ、Pythonプログラミングの基本を本格的に学ぶ。『プログラミング基礎』を履修済みであるか、同等の知識と経験を有することを前提とする。</p> <p>プログラムの作成・実行の方法とPythonの基本文法を学ぶ。また、プログラムが決められた手順で実行されていることを理解し、問題を解くためにどのような指示をすれば良いのかを考え、論理的な思考を養う。</p> <p>毎回示されたサンプルに基づく小課題のプログラムを作りながら学習を進めていく。</p>						
到達目標	<p>この科目は、メディアコミュニケーション学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。」及び「コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる。」というディプロマ・ポリシーに関連し、プログラミングの知識及びソフトウェア開発の基礎知識の習得を目指す。具体的には、Pythonの文法の基礎知識を身につけ、プログラムを作成・実行することができ、また、問題解決のための適切な処理順序を考えることができるようになる。</p>						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容

第1回	科目説明、クラス分け、プログラム開発環境の確認 予習：Pythonの基本プログラミング環境がインストール済みであることを確認すること。「プログラミング基礎」の授業（相当の内容）を復習しておくこと。（100分） 復習：Pythonプログラムの開発環境の使い方を理解し、プログラム作成に利用できるようにすること。（100分）
第2回	データの種類と操作を学ぶ：基本データ型と演算子、変数の利用 予習：Pythonの基本データ型、演算子、変数について調べておくこと。（100分） 復習：Pythonの基本データと演算子、変数を理解し、それらを利用したプログラムが作成できる（100分）
第3回	条件に応じて動作が変わるプログラムを作る。：比較演算子と条件式、条件分岐、論理演算子 予習：Pythonにおける条件式の書き方、条件分岐について調べておくこと。（100分） 復習：Pythonの条件分岐を理解し、それらを利用したプログラムが作成できる。（100分）
第4回	データの集まりを扱う方法を学ぶ。：リスト、タブル、辞書 予習：Pythonコンテナ（リスト、タブル、辞書）について調べておくこと。（100分） 復習：Pythonのコンテナを理解し、それらを利用したプログラムが作成できる。（100分）
第5回	もっと複雑な条件を指定する。論理演算子の使い方 予習：Pythonにおける論理演算子の使い方について調べておくこと。（100分） 復習：Pythonの論理演算を理解し、それらを利用したプログラムが作成できる。（100分）
第6回	何度も繰り返して処理を行わせる。：繰り返し処理 予習：Pythonにおける繰り返し処理について調べておくこと。（100分） 復習：Pythonの繰り返し処理を理解し、それらを利用したプログラムが作成できる。（100分）
第7回	オブジェクトとクラスを学ぶ：オブジェクト指向とクラス 予習：Pythonにおけるオブジェクトとクラスについて調べておくこと（100分） 復習：Pythonのオブジェクトとクラスを理解し、説明できる。（100分）
第8回	モジュールとパッケージを学ぶ： 予習：Pythonの標準モジュールについて調べておくこと。（100分） 復習：Pythonのモジュールを用いたプログラムが作成できる。（100分）
第9回	色々なモジュールの活用について： 予習：Pythonでの乱数生成方法について調べておくこと（100分） 復習：Pythonの乱数モジュールを利用したプログラムが作成できる。（100分）
第10回	ファイルの読み書きをしよう。： 予習：Pythonにおけるファイル入出力について調べておくこと（100分） 復習：Pythonのファイル入出力プログラムが作成できる。（100分）
第11回	正規表現 予習：Pythonにおける正規表現について調べておくこと（100分） 復習：Pythonの正規表現を利用したプログラムが作成できる。（100分）
第12回	エラーの対処方法について： 予習：Pythonにおける例外とエラー署について調べておくこと（100分） 復習：Pythonの例外処理を利用したプログラムが作成できる。（100分）
第13回	

	<p>総合練習。これまでに学んだ要素を組み合わせる 予習：これまでに学んだPythonの技術要素を見直す。（100分） 復習：これまでに学んだ技術要素を組み合わせたプログラムが作成できる。（100分）</p>
第14回	<p>課題プログラムの作成 予習：エドクラテス上にある課題プログラムの資料を読み事前に確認すること（100分） 復習：課題プログラムが作成できる。（100分）</p>

成績評価方法・基準	学習意欲（課題提出により評価する）(25%)、プログラム練習課題（プログラムをエラー無く作成実行できること、プログラムの個々の文法についての理解を、対応する個別の練習課題により評価する）(45%)、最終プログラム課題により全体の理解を評価する(30%)。
-----------	---

書名	著者	出版社	ISBN	備考
ゼロからわかるPython超入門	佐藤美登利	技術評論社	9784774198309	
参考書				
その他				
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	株)富士総合研究所、株)ベストシステムズへの勤務や、独立行政法人科学技術振興機構技術員として、各種システムの構築やシミュレータの開発を行う。
学生を主体とする教育方法の実践	実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(2)/メディアコミュニケーション学部(4)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	八木 徹 (D-0103)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位			
年度	2020年度	科目名	プログラミングII							
学期※2	2020年度後期			学校区分	大学					
科目群	情2群			区分（授業形態）	週間授業					
副題	Pythonによるプログラミング：応用									
授業の概要	<p>「プログラミング」での学習内容をもとに、さらに高度な内容について学習を深める。このため、「プログラミング」を履修済みであるか、同等の知識・技能を有することを前提とする。</p> <p>Pythonのデータ型、基本分布、標準モジュールを整理した上で、プログラム開発の流れを把握し、総合的な課題プログラムに繰り返し取り組む。また様々なモジュールを学びPythonの多様性を知り、問題の解決に役立てることができるようする。</p>									
到達目標	<p>この科目は、メディアコミュニケーション学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。」及び「コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる。」というディプロマ・ポリシーに関連し、プログラミングの知識及びソフトウェア開発の基礎知識の習得を目指す。具体的には、設計からデバッグまでのプログラミングの流れを身につけ、適切なデータ型、制御文を利用してプログラムを作成できるようになり、多様なモジュールを目的に応じて利用できるようする。</p>									

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容							
第1回	<p>基礎を振り返ろう。『プログラミング』の復習 予習：プログラミングで学んだPythonの基本と、作成した課題プログラムを確認しておくこと。(100分) 復習：Pythonの基本プログラムが作成できることを確認する。(100分)</p>						
第2回	<p>色々なデータを扱う。Pythonにおける多様なデータ型と組み込み関数 予習：エドクラテスにアップロードした資料を確認しておくこと。(100分) 復習：Pythonの様々なデータ型や組み込み関数を利用できるようにする。(100分)</p>						
第3回	<p>プログラミングの全体を理解しよう。設計からデバッグまで 予習：エドクラテスにアップロードした資料を確認しておくこと。(100分) 復習：仕様策定から設計、コーディング、デバッグ、テストという開発の流れを理解できるようにする。(100分)</p>						
第4回	<p>課題プログラム作成1：CUIアプリを作成 予習：エドクラテスにアップロードした資料を確認しておくこと。(100分) 復習：これまでに学んだ知識を統合し、CUIベースのプログラムを作成できるようにする。(100分)</p>						
第5回	<p>Pythonグラフィック処理1：turtleモジュールの活用 予習：エドクラテスにアップロードした資料を確認しておくこと。(100分) 復習：turtleモジュールの使い方を理解する。(100分)</p>						
第6回	<p>Pythonグラフィック処理2：Pillowモジュールの活用 予習：エドクラテスにアップロードした資料を確認しておくこと。(100分) 復習：Pillowモジュールの使い方を理解する。(100分)</p>						
第7回	<p>PythonでGUIの作成：tkinterモジュールの活用 予習：エドクラテスにアップロードした資料を確認しておくこと。(100分) 復習：tkinterモジュールの使い方を理解する。(100分)</p>						
第8回	<p>課題プログラム作成2：GUIアプリの設計 予習：エドクラテスにアップロードした資料を確認しておくこと。(100分) 復習：tkinterを用いたGUIアプリの作り方を理解する。(100分)</p>						
第9回	<p>課題プログラム作成3：GUIアプリの作成 予習：エドクラテスにアップロードした資料を確認しておくこと。(100分) 復習：tkinterを用いてGUIアプリを作る。(100分)</p>						
第10回	<p>Pythonの応用体験1：Pythonでデータ分析 予習：エドクラテスにアップロードした資料を確認しておくこと。(100分) 復習：Pandasなどのモジュールを用いてデータ分析を行う(100分)</p>						
第11回	<p>Pythonの応用体験2：PythonとWeb 予習：エドクラテスにアップロードした資料を確認しておくこと。(100分) 復習：Pythonの簡易Webサーバの使い方を理解し、CGIプログラムを作る。(100分)</p>						
第12回	<p>プログラムを用いて問題を解こう。：アルゴリズム基礎 予習：エドクラテスにアップロードした資料を確認しておくこと。(100分) 復習：Pythonを用いてアルゴリズムの動作を確認する。(100分)</p>						
第13回	<p>統合課題：プログラム設計</p>						

	これまでの知識を統合してプログラムを作成する。そのための準備を行う。 予習：エドクラテスにアップロードした資料を確認しておくこと。(100分) 復習：プログラムの設計内容を理解し、説明できるようにする。(100分)
第14回	統合課題：プログラム作成 これまでの知識を統合したプログラムを完成させる。 予習：エドクラテスにアップロードした資料を確認しておくこと。(100分) 復習：プログラム作成に用いたモジュールやアルゴリズムを把握し、説明できるようにする。(100分)

成績評価方法・基準	学習意欲（課題提出により評価する）(25%)、プログラム練習課題（個別の練習課題で評価する）(45%)、最終プログラム課題により全体の理解を評価する(30%)
-----------	---

書名	著者	出版社	ISBN	備考
みんなのPython : lightweight language Python definitive guide	柴田淳	SBクリエイティブ	9784797389463	
参考書				
その他				
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	株)富士総合研究所、株)ベストシステムズへの勤務や、独立行政法人科学技術振興機構技術員として、各種システムの構築やシミュレータの開発を行う。
学生を主体とする教育方法の実践	実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(2)/メディアコミュニケーション学部(4)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	八木 徹 (D-0103) 、山口 敏和(T-0603)			履修開始年次	1年	単位※1	2単位			
年度	2020年度			科目名	ロジカルシンキング					
学期※2	2020年度後期			学校区分	大学					
科目群	情2群			区分 (授業形態)	週間授業					
副題	パズルによるアルゴリズムの基礎									
授業の概要	パズルを題材にして論理的に考える力をトレーニングする。さらに、フローチャートと疑似言語によるアルゴリズムの記述法を身に付け、今後のプログラミング、アルゴリズムの学習を行う基礎とする。さらに、簡易的なプログラムを作成し、実際にパズルを解くことで適切にアルゴリズムを記述する力を養う。									
到達目標	この科目は、メディアコミュニケーション学部のディプロマポリシーのうち『知識と体験を基に、批判的かつ洞察的に思考し判断することができる』及び『新しい時代を豊かに生きぬくため、溢れる情報を正確に判断・選別しうる能力と、的確に伝える能力を修得している』と、情報文化学科のディプロマポリシーのうち「進化するメディア環境の中で、溢れる情報を「正確に捉え、的確に伝える」ことができる」に関連し、問題解決のための論理的な考え方ができるようになると、簡単なアルゴリズムを適切に記述できるようになることを目指す。									

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容

第1回	オリエンテーション（授業の進め方） 予習：論理的な思考法とはどのようなものか自分なりに調べまとめる。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組む。(100分)
第2回	演繹法：演繹法による考察を行う 予習：エドクラテスに出される資料を事前に読み、不明な点を調べる。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組む。(100分)
第3回	帰納法：帰納法による考察を行う 予習：エドクラテスに出される資料を事前に読み、不明な点を調べる。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組む。(100分)
第4回	全数探索：全ての可能性をしらみつぶしに調べる方法について考察する 予習：エドクラテスに出される資料を事前に読み、不明な点を調べる。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組む。(100分)
第5回	再帰：問題をより小さな部分に分けて考察する方法について学ぶ 予習：エドクラテスに出される資料を事前に読み、不明な点を調べる。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組む。(100分)
第6回	探索問題1：幅優先探索の仕方を考える 予習：エドクラテスに出される資料を事前に読み、不明な点を調べる。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組む。(100分)
第7回	探索問題2：深さ優先探索の仕方を考える 予習：エドクラテスに出される資料を事前に読み、不明な点を調べる。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組む。(100分)
第8回	並べ替え：並び替えの方法について考察する 予習：エドクラテスに出される資料を事前に読み、不明な点を調べる。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組む。(100分)
第9回	ナップサック問題：価値の最大化を考える 予習：エドクラテスに出される資料を事前に読み、不明な点を調べる。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組む。(100分)
第10回	アルゴリズムの記述法：フローチャートの表記法を学び、アルゴリズムの記述を行う。 予習：エドクラテスに出される資料を事前に読み、不明な点を調べる。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組む。(100分)
第11回	アルゴリズムの記述法：疑似言語について学び、アルゴリズムの記述を行う。 予習：エドクラテスに出される資料を事前に読み、不明な点を調べる。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組む。(100分)
第12回	アルゴリズムを指定したパズルの解法1：パズルを解くアルゴリズムについて考察する。 予習：エドクラテスに出される資料を事前に読み、不明な点を調べる。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組む。(100分)
第13回	アルゴリズムを指定したパズルの解法2：アルゴリズムの実践として、具体的にパズルを解く。 予習：エドクラテスに出される資料を事前に読み、不明な点を調べる。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組む。(100分)

第14回	まとめ：総合的な最終課題に取り組む 予習：エドクラスに出される資料を事前に読み、不明な点を調べる。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組む。(100分)
成績評価方法・基準	問題解決のための論理的な考え方と、簡単なアルゴリズムが適切に記述できているかについてを、以下のそれぞれの方法で評価する。 平常点（課題提出により評価する）(25%)、 練習課題（毎回の授業で出される課題）(45%) 最終課題 (30%)
参考書	アルゴリズムパズループログラマのための数学パズル入門一, Anany Levitin, Maria Levitin 著、オライリー・ジャパン プログラマ脳を期待得る数学パズル、増井敏克、翔泳社 全ての倫理思考はパズルが教えてくれる、東田大志、PHP研究所
その他	
参考URL	
実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	株)富士総合研究所、株)ベストシステムズへの勤務や、独立行政法人科学技術振興機構技術員として、各種システムの構築やシミュレータの開発を行う。
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート／グループワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(1)／メディアコミュニケーション学部(6)／情報文化学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	氏原 基余司(D-0503)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位			
年度	2020年度	科目名	国語							
学期※2	2020年度前期			学校区分	大学					
科目群	こ2群			区分（授業形態）	週間授業					
副題										
授業の概要	前半（第1回から第8回）は、国語の重要性とその役割、国語施策の内容を中心に学ぶ。後半（第9回から第14回）は、幼・小教育のつながりとその関連を踏まえて、国語科教育に必要な知識や技能が習得できるように授業を行う。授業形式は講義を中心とするが、学生とのやり取りを重視して行う。									
到達目標	この科目は、子どもコミュニケーション学科の「子どもの成長過程を見据え健全な成長を導くために、必要な知識を身につけている。」というディプロマポリシーに関連している。具体的には以下の3点を目標にする。 1 国語の重要性とその役割について理解し、国語科教育の持つ意味を理解する。 2 国語表記のよりどころとなっている国語施策（常用漢字表・現代仮名遣い・送り仮名の付け方・外来語の表記等）の内容を理解し、身に付ける。 3 国語を教える場合の基本事項（話す・聞く・読む・書く等）を理解し、身に付ける。									

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容								
第1回		<p>「国語の重要性とその役割」について 授業内容：国語の重要性を確認した後、ことばシリーズ38「言葉と環境」に入っている「言語環境としての家庭」を配布し、子供の言語獲得について確認する。</p> <p>復習：「言語環境としての家庭」を改めて読み直し、自分の考えをまとめてくる。（100分）</p>						
第2回		<p>子供の発達段階と国語教育、国語教育の持つ意味 授業内容：前回配布した「言語環境としての家庭」を使って、改めて言語獲得についてまとめていく。その過程で、内言、外言、セミリンガル（ダブルリミッテッド）の問題を取り上げる。</p> <p>予習：ピアジェ、ヴィゴツキーについて調べてくる。（100分） 復習：国語教育の持つ重要性について説明できる。（100分）</p>						
第3回		<p>日本人のコミュニケーションの在り方について 授業内容：「相手依存の自己規定」（鈴木孝夫）を読んで、日本人のコミュニケーションの在り方について考察を加える。欧米人との違いを理解する。</p> <p>予習：事前に配布された「相手依存の自己規定」を読んでくる。（100分） 復習：人称代名詞の使い方などに見られる欧米人との違いを説明できる。（100分）</p>						
第4回		<p>国語力について（1） 授業内容：「これから時代に求められる国語力について」（文化審議会答申）を使って、国語力の重要性について確認していく。</p> <p>予習：「これから時代に求められる国語力について」を読んでくる。（100分） 復習：「国語力の重要性」について説明できる。（100分）</p>						
第5回		<p>国語力について（2） 授業内容：「これから時代に求められる国語力について」のうち、脳の発達との関係についてもう少し掘り下げて説明する。</p> <p>予習：「これから時代に求められる国語力について」のうち、「脳の発達との関係」について記述された部分を読んでくる。（100分） 復習：「脳の発達との関係」を踏まえて、国語力の重要性を説明できる。（100分）</p>						
第6回		<p>国語力についてのまとめ 授業内容：「読書と国語力」（川島隆太、90分）を見て、「脳の発達」と「言葉の発達」の関係を理解する。</p> <p>予習：「脳の発達」と「言葉の発達」との関係について、調べてくる。（100分） 復習：「読書と国語力」を見て理解した内容を1000字から1500字程度にまとめ、次回の授業で提出する。（100分）</p>						
第7回		<p>国語施策について（1） 授業内容：「現代仮名遣い・送り仮名の付け方」について確認し、小学校低学年の児童にどう教えるかを理解し、身に付ける。</p> <p>予習：1年次に使用した「新しい国語表記ハンドブック」のうち、「現代仮名遣い」と「送り仮名の付け方」のところを確認していく。（100分） 復習：「現代仮名遣い」と「送り仮名の付け方」について理解し、教えることができるようになる。（100分）</p>						
第8回		<p>国語施策について（2） 授業内容：「外来語の表記・ローマ字のつづり方」について確認し、小学校低学年の児童にどう教えるかを理解し、身に付ける。</p> <p>予習：1年次に使用した「新しい国語表記ハンドブック」のうち、「外来語の表記」と「ローマ字のつづり方」のところを確認していく。（100分） 復習：「外来語の表記」と「ローマ字のつづり方」について理解し、教えることができるようになる。（100分）</p>						
第9回		小学校における「漢字教育」について						

	<p>授業内容：「常用漢字表」と「学年別漢字配当表（1026字）」との関係、具体的な字形指導について、どう教えるかを理解し、身に付ける。音と訓との関係、訓の持つ意味についても説明する。</p> <p>予習：1年次に使用した「新しい国語表記ハンドブック」のうち、「常用漢字表」と「学年別漢字配当表（1026字）」のところを確認していく。（100分）</p> <p>復習：漢字についての教え方を理解し、教えることができるようになる。（100分）</p>
第10回	<p>小学校における「話す・聞く」の指導について</p> <p>授業内容：「学習指導要領」にある「話す・聞く」の内容を確認した上で、どう教えるかを理解し、身に付ける。</p> <p>予習：事前に配布された「学習指導要領」の「話す・聞く」のところを読んでくる。（100分）</p> <p>復習：「話す・聞く」の内容を理解した上で、教えることができるようになる。（100分）</p>
第11回	<p>小学校における「読む（説明文・論説文・文学的な文章）」の指導について</p> <p>授業内容：「学習指導要領」にある「読む」の内容を確認した上で、どう教えるかを理解し、身に付ける。</p> <p>予習：事前に配布された「学習指導要領」の「読む」のところを読んでくる。（100分）</p> <p>復習：「話す・聞く」の内容を理解した上で、教えることができるようになる。（100分）</p>
第12回	<p>小学校における「書く（書くことの意味・どう書かせるか）」の指導について</p> <p>授業内容：「学習指導要領」にある「書く」の内容を確認した上で、どう教えるかを理解し、身に付ける。</p> <p>予習：事前に配布された「学習指導要領」の「書く」のところを読んでくる。（100分）</p> <p>復習：「書く」の内容を理解した上で、教えることができるようになる。（100分）</p>
第13回	<p>授業ビデオ「漢字の字源をさぐる」を見る</p> <p>授業内容：「漢字の字源をさぐる」（5年生、50分）の授業を見て、どのように指導するのかを具体的に理解する。残りの時間で子供たちの様子や教え方についてグループごとに検討する。</p> <p>予習：「漢字の字源」について、各自で調べてくる。（100分）</p> <p>復習：授業について「感じたこと・考えたこと」を1000字から1500字程度にまとめ、次回の授業で提出する。（100分）</p>
第14回	<p>授業のまとめ（総括）</p> <p>授業内容：これまでの講義内容を整理し、必要があれば補足を加える。</p> <p>予習：これまでの授業内容の総括をする。（100分）</p> <p>復習：これまでの授業内容を踏まえて、ノートの整理をする。（100分）</p>

成績評価方法・基準	国語の重要性とその役割を十分理解した上で国語施策の内容や国語科教育の指導法などについて、その理解を問う定期試験70%、授業への取組（課題の提出状況及びその内容、授業に対する積極的な取組、出席状況など）30%、以上を総合的に判断して評価する。			
-----------	--	--	--	--

書名	著者	出版社	ISBN	備考
これからの時代に求められる国語力について	文化審議会答申			授業中に配布する
新しい国語表記ハンドブック【第八版】	三省堂編修所	三省堂	978-4-385-21139-8	昨年購入済み
参考書				
その他				
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	都立高校教諭、文化庁文化部国語課・国語調査官、同主任国語調査官
学生を主体とする教育方法の実践	グループワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(1)／メディアコミュニケーション学部(2)／こどもコミュニケーション学科(1)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	我謝 美左子(T-0305)			履修開始年次	3年	単位※1	2単位
年度	2020年度	科目名	子ども家庭支援論/家庭支援論				
学期※2	2020年度前期			学校区分	大学		
科目群	こ2群			区分(授業形態)	週間授業		
副題	子育て支援体制における保育者が担う家庭支援						
授業の概要	家庭養育の方向性が示される中、家庭で暮らすすべての子どもに、適切な養育支援が届く体制が求められている。そのことを踏まえて、その体制における支援の一部を担う保育者の役割について理解できるようになることを目的に授業を展開する。 具体的には、教科書を中心とする講義形式とするが、適宜、子育て支援に関するDVD視聴や、自治体のサービス状況等について、ディスカッションを取り入れる。						
到達目標	この科目は子どもコミュニケーション学科の「溢れる情報を『正確にとらえ、的確に伝える』コミュニケーション能力を備え、子ども、家庭、学校、地域社会、職域その他の社会的関係性を踏まえ、相互に協力しつつ地域の子ども・子育て支援に貢献し続けることの大切さを理解している」というディプロマポリシーに関連し、次の3点を到達目標としている。 1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解し、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について説明できる。 2. 子育て家庭の支援体制について説明できる。 3. 子育て家庭のニーズに応じ多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について考察できる。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容

第1回	ガイダンス 授業の目標、進め方、評価方法 子ども家庭支援の意義と役割① 子ども家庭支援意義と機能(1講) 予習:シラバスを見て授業の概要をつかむ(100分) 復習:子ども家庭支援の意義について説明することができる(100分)
第2回	家庭支援の意義と役割② 子ども家庭支援の必要性、保育の専門性を活かした子ども子育て支援の意義(2.3講) ミニテスト①(1講) 予習:保育の専門性について調べる(100分) 復習:子育て支援における保育の専門性の要点を説明できる(100分)
第3回	保育士による子ども家庭支援の意義と基本① 子どもの育ちと共有、家庭の状況に応じた支援 (4.6講) ミニテスト②(2.3講) 予習:家庭の子育てニーズについて調べる(100分) 復習:家庭の子育てニーズについて説明できる(100分)
第4回	保育士による子ども家庭支援の意義と基本② 保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上(5講) ミニテスト③(4.6講) 予習:保護者及び地域の力について調べる(100分) 復習:保護者及び地域の力を活かす関わりの要点を説明できる(100分)
第5回	保育士による子ども家庭支援の意義と基本③ 保育士に求められる基本的態度(受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持)(7講) 予習:保育士の基本的態度について調べる(100分) 復習:保育士の基本的態度を習得することがなぜ必要か考えをまとめる(100分)
第6回	子育て家庭に対する支援の体制① 子育て家庭の福祉を図るために社会資源(8講) ミニテスト③(5.7講) 予習:社会資源を調べる(100分) 復習:社会資源について説明できる(100分)
第7回	子育て家庭に対する支援の体制② 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進(9講) 予習:子育て支援施策について調べる(100分) 復習:子育て支援施策の動向の要点を説明できる(100分)
第8回	多様な支援の展開と関係機関との連携① 子ども家庭支援の内容(10講)(ワークシート作成) ミニテスト④(8.9講) 予習:実習実施園の自治体のサービスを調べるために調べる(100分) 復習:自治体の取り組み差があることについて考えをまとめる(100分)
第9回	多様な支援の展開と関係機関との連携① 保育所等利用する子どもの家庭への支援(11講) 予習:保育所の子ども家庭支援について調べる(100分) 復習:保育所の家庭支援の要点を説明できる(100分)
第10回	多様な支援の展開と関係機関との連携③ ミニレポート作成 復習:子ども家庭支援について考えをまとめる(100分)
第11回	多様な支援の展開と関係機関との連携④ 地域の子育て家庭への支援(12講) 予習:地域の子育て家庭への支援について調べる(100分) 復習:地域の子育て家庭への支援の概要を説明できる(100分)

第12回	多様な支援の展開と関係機関との連携④ 要保護児童及びその家庭に対する支援 (13講) 予習:要保護児童の家庭支援について調べる(100分) 復習:要保護児童の家庭支援(100分)
第13回	多様な支援の展開と関係機関との連携④ 子育て支援における関係機関との連携(14講) ミニテスト⑥(12.13講) 予習:関係機関との連携について調べる(100分) 復習:関係機関との連携の要点について設問できる(100分)
第14回	多様な支援の展開と関係機関との連携⑤ 子ども家庭支援に関する現状と課題(15講) 予習:現状と課題について調べる(100分) 復習:授業全体を踏まえ試験範囲についてまとめる(100分)

成績評価方法・基準	子育て支援体制や関係機関の連携等についての理解を問う定期試験60%、保育士が担う家庭支援に関する記述10%(ふり返りシート)、子育て家庭支援に関する基礎的な問和えを問う授業内ミニテスト30%等(ミニテスト10%、ミニレポート10%、ワークシート10%)を合計して評価する。授業内で行うミニテスト等は授業内で返却し解説を行う。
-----------	--

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『家庭支援論』【第2版】	編集:新保幸男・小林理	中央法規		
参考書				
その他				
参考URL				

実務経験	あり (実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用)
実務経験詳細	社会福祉法人母子生活支援施設母子指導員及び子ども家庭支援センター嘱託相談員として、社会的養育の場に20余年にわたり従事
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート
ディプロマ・ポリシーとの関連性	子どもコミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	我謝 美左子(T-0305)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位					
年度	2020年度	科目名	子育て支援/相談支援									
学期※2	2020年度前期			学校区分	大学							
科目群	こ2群			区分 (授業形態)	週間授業							
副題	保育士が子育て支援を担う意味を考える											
授業の概要	地域で暮らす要保護・要支援児童を含む、保育所入所児及び未入所児を養育する保護者に対し、保育所が相談支援の役割を担う必要があることを学び、そのための方法・技術を理解する。 具体的には、体験・参加型の演習形式により、グループワーク、デスカッション、ロールプレイなどを取り入れる。											
到達目標	この科目は子どもコミュニケーション学科の「溢れる情報を『正確にとらえ、的確に伝える』コミュニケーション能力を備え、子ども、家庭、学校、地域社会、職域その他の社会的関係性を踏まえ、相互に協力しつつ地域の子ども・子育て支援に貢献し続けることの大切さを理解している」というディプロマポリシーと関連させて次の2点を到達目標としている。 1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に説明できる。 2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に討議することができる。											

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容

第1回	ガイダンス 授業の目標、進め方、評価方法 保育士の行う子育て支援の特性① 子どもの保育と共に進行する保護者の支援(1章) 予習:シラバスをみて授業の概要をつかむ(100分) 復習:支援の特性について説明できる(100分)
第2回	保育士の行う子育て支援の特性② 相互理解と信頼関係の形成、子どもの権利の視点からニーズと多面的な理解、他者と交わる場の提供 (2章・3章) 予習:子どもと保護者が抱えるニーズについて調べる(100分) 復習:子どもの権利の視点からニーズについて説明できる(100分)
第3回	保育士の行う子育て支援の特性③ 展開過程 (4章) 予習:子育て支援の展開過程について調べる(100分) 復習:子育て支援の特性について考えをまとめる(100分)
第4回	保育士の行う子育て支援の展開① 支援計画・支援の実践・記録・評価・カンファレンス (5章) ミニテスト①(1.2.3.4章) 予習:計画・記録・評価について調べる(100分) 復習:計画・記録・評価について要点を説明できる(100分)
第5回	保育士の行う子育て支援の展開② 状況・状態の把握(DVD) (6章) 予習:信頼関係の構築について調べる(100分) 復習:信頼関係の構築するためのスキルについてまとめる(100分)
第6回	保育士の行う子育て支援の展開③ 状況・状態の把握(7章) 予習:状況・状態の把握について調べる(100分) 復習:状況・状態の把握について説明できる(100分)
第7回	保育士の行う子育て支援の展開④ 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働 (8章) 予習:社会資源について調べる(100分) 復習:社会資源の活用と関係機関の連携について要点を説明できる(100分)
第8回	保育士の行う子育て支援とその実際 (内容・方法・技術)① 事例検討(保育所の特性・地域子育て家庭)(9章) ミニテスト②(5.6.7.8章) 予習:保育所の子育て支援について調べる(100分) 復習:支援の展開について要点を説明できる(100分)
第9回	保育士の行う子育て支援の実際② 事例検討(障害のある子ども及び家庭に対する支援:DVD)(10章) ミニレポート作成・提出 予習:障害のある子どもと家庭について調べる(100分) 復習:障害のある子どもと家庭について考えをまとめる(100分)
第10回	保育士の行う子育て支援とその実際 (内容・方法・技術)③ 事例検討(特別な支援を要する子ども及びその家庭・障害のある子ども及び家庭・子ども虐待・要保護児童等の家庭)(10章) 予習:特別な配慮について調べる(100分) 復習:支援の展開について要点を説明できる(100分)
第11回	保育士の行う子育て支援とその実際 (内容・方法・技術)④ 事例検討(多様なニーズを抱える子育て家庭の理解:DVD)(11章) 予習:クレーム対応について調べる(100分) 復習:支援の展開について要点を説明できる(100分)

第12回	保育士の行う子育て支援とその実際（内容・方法・技術）⑤ 選択事例検討(保育所等における支援)(12.13章) 予習:家庭が抱える多様なニーズについて調べる(100分) 復習:支援の展開について要点を説明できる(100分)
第13回	保育士の行う子育て支援とその実際（内容・方法・技術）⑥ 選択事例検討・グループ発表(保育所等における支援)(12.13章) 予習:グループで発表の準備をする(100分) 復習:発表で得た気づきをまとめる(100分)
第14回	保育士が担う子育て支援の総括 グループ発表予備日(12.13章) 予習:保育士が担う子育て支援の課題について考えをまとめる(100分) 復習:授業全体を踏まえ試験範囲についてまとめる(100分)

成績評価方法・基準	保育士が担う子育て支援に関する理解を問う定期試験60%、子育て支援に関する記述等平常点10%(ふり返りシート)、支援に関する方法や技術などに関する考え方を問う授業内ミニテスト等30%(ミニテスト10%、ミニレポート20%)を合計して評価する。授業内で行うミニテスト、ミニレポートは授業内で返却し解説を行う。
-----------	---

書名	著者	出版社	ISBN	備考
学ぶ・わかる・みえる『演習・保育と子育て支援』	編集小原敏郎・橋本好市・三浦主博	みらい		
参考書				
その他				
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	社会福祉法人母子生活支援施設母子指導員及び子ども家庭支援センター嘱託相談員として、社会的養育の場に20余年にわたり従事
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション
ディプロマ・ポリシーとの関連性	こどもコミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	高橋 克(T-0103)			履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2020年度			科目名	こどもと文学		
学期※2	2020年度前期			学校区分	大学		
科目群	こ2群			区分(授業形態)	週間授業		
副題	民話と児童文学に触れる						
授業の概要	日本の児童文学は、近代文学成立とほぼ同時期に確立されたと考えられるが、その時期の雑誌や童話などの文学作品から現代に至る主な雑誌・文学作品を鑑賞することによって、それら作品が大人から児童に向けた教育を主眼とした内容から、遊びの要素を持ちつつも次第に大人の文学作品としてもその地位を持つようになったことを理解する。また、昔話や伝説を網羅する民話は、民間の習俗や知恵の集積があり、日本人の原像が語られる文学であることも理解する。						
到達目標	日本文学史における児童文学、民話の位置を理解するとともに、文学作品（主として童話、昔話）の鑑賞を通して、教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけ、子どもの成長過程を見据え健全な成長を導き、児童文学の教育的価値観や文学的価値観を評価できる。				この科目はメディアコミュニケーション学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけるている。」、こどもコミュニケーション学科の「子どもの成長過程を見据え健全な成長を導くために、必要な知識を身につけている。」というディプロマ・ポリシーに関連している。		

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容

第1回	日本文学史における児童文学・・児童文学の概略 予習：任意の児童文学作品を読んでおく。(100分) 復習：授業で扱った作品の読み込みをして鑑賞文にまとめる。(100分)
第2回	日本の民話・・子ども向け動画・漫画を含む 予習：任意の児童文学作品を読んでおく。(100分) 復習：授業で扱った作品の読み込みをして鑑賞文にまとめる。(100分)
第3回	日本の民話の鑑賞・・絵本及び各自の推薦する物語 予習：任意の民話を読んで推薦文を書いておく。(100分) 復習：授業で扱った作品の読み込みをして鑑賞文にまとめる。(100分)
第4回	岩谷小波「こがね丸」・小川未明「赤い船」の作品鑑賞 予習：任意の児童文学を読んで鑑賞文を書いておく。(100分) 復習：授業で扱った作品の読み込みをして鑑賞文にまとめる。(100分)
第5回	鈴木三重吉主宰の「赤い鳥」の児童文学における意義 予習：任意の児童文学を読んでおく。(100分) 復習：児童文学における「赤い鳥」の功績についてまとめ説明できるようにする。(100分)
第6回	鈴木三重吉作品の鑑賞・・「ぱっぽのお手帳」「狐とお菓子」「欲張り猫」「赤いか青いか」他 予習：「赤い鳥」所収の児童文学を読んでおく。(100分) 復習：「赤い鳥」所収の任意の作品についてまとめ説明できるようにする。(100分)
第7回	高浜虚子「一寸法師」・谷口喜代子「めがね」・丹野てい子「どんぐり小坊主」等の作品鑑賞 予習：「赤い鳥」所収の児童文学を読んでおく。(100分) 復習：授業で扱った作品の鑑賞をまとめ説明できるようにする。(100分)
第8回	北原白秋の童謡の朗読と鑑賞・・「赤い鳥小鳥」「あわて床屋」「雀のお宿」「ねんねこうた」「ちんちん千鳥」など 予習：「赤い鳥」所収の児童文学を読んでおく。(100分) 復習：「赤い鳥」所収の任意の作品について朗読披露できるようにする。(100分)
第9回	宮沢賢治の童話作品（宮沢賢治童話全集より各自選択）を読み鑑賞する。 予習：任意の宮沢賢治の童話を読んでおく。(100分) 復習：任意の宮沢賢治の童話の作品について鑑賞文をまとめ説明できるようにする。(100分)
第10回	新美南吉を知り作品「のら犬」等を読み鑑賞する。 予習：任意の宮沢賢治の童話を読んでおく。(100分) 復習：新美南吉の「のら犬」について鑑賞文をまとめ説明できるようにする。(100分)
第11回	金子みすゞの世界と作品童謡集）・・「金子みすゞ」を知り作品鑑賞をする。 予習：任意の金子みすゞの作品を読んでおく。(100分) 復習：金子みすゞの作品について鑑賞文をまとめ説明できるようにする。(100分)
第12回	島木赤彦の童謡作品（第一・第二・第三童謡集より）を読む・・作品に込められた情やおもしろさを知る 予習：島木赤彦の童謡作品を読んでおく。(100分) 復習：島木赤彦の童謡作品について鑑賞文をまとめ説明できるようにする。(100分)
第13回	

	「心にとまった童話」の学生各自による紹介と鑑賞発表（プレゼンテーション）、批評 予習：任意の童話を読んでおく。（100分） 復習：任意の童話について鑑賞文をまとめ説明できるようにする。（100分）
第14回	「心にとまった昔話」の学生各自による紹介と鑑賞（プレゼンテーション）、批評 予習：任意の昔話を読んでおく。（100分） 復習：任意の昔話について鑑賞文をまとめ説明できるようにする。（100分）

成績評価方法・基準	児童文学の教育的価値観や文学的価値観の評価に関する課題についての発表・提出 30% 講義のまとめプリントの提出 20% 試験 50% で評価
-----------	--

書名	著者	出版社	ISBN	備考
自作プリント				
参考書	『千葉ふるさと昔話』 高橋克 千葉興業銀行 『房総の民話』 高橋在久 未来社			
その他	プリント配布			
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	県立高校に教諭として18年勤務。県立博物館に学芸員として3年勤務。県教育委員会生涯学習部文化財課に文化財主事として3年勤務。学校教育と社会教育、文化財保護行政の場で教育・研究を実施。
学生を主体とする教育方法の実践	プレゼンテーション／実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(2)／社会学部(3)／メディアコミュニケーション学部(3)／メディアコミュニケーション学部(4)／メディアコミュニケーション学部(7)／こどもコミュニケーション学科(1)／卒業要件外科目等

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	高橋 克(T-0103)			履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2020年度	科目名	生涯学習論I				
学期※2	2020年度前期			学校区分	大学		
科目群	1群			区分(授業形態)	週間授業		
副題	生涯学習の現状と課題						
授業の概要	生涯学習及び社会教育の本質について理解するとともに、学習者の特性や各種教育の連携についてなど、広く生涯学習に関する事項について学び検証する。また、主体的に学習する人たちの社会のありかたを学び考察する。						
到達目標	生涯学習の意義や方法や施設の現状などを学び、説明できること。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容

第1回	「生涯学習」の位置づけー私たちを取り巻く学習環境ー 予習：生涯学習と自身の関わりを調べておく。(100分) 復習：自身の生涯学習の実際を系統的に説明できるようにまとめる。(100分)
第2回	「生涯学習」の意義 予習：生涯学習の必要性について調べておく。(100分) 復習：生涯学習の必要性をまとめ説明できるようにまとめる。(100分)
第3回	生涯学習（教育）論：生涯学習(教育)論の理念の出現（諸外国の事例から） 予習：生涯学習という言葉の使われた歴史を調べておく。(100分) 復習：生涯学習の出現した歴史を説明できるようにまとめる。(100分)
第4回	生涯学習と教育（1）：生涯学習と家庭教育の動向について 予習：家庭での教育の具体的な事例を調べておく。(100分) 復習：生涯学習における家庭教育の重要性を説明できるようにまとめる。(100分)
第5回	生涯学習と教育（2）：生涯学習と学校教育の動向について 予習：学校教育と社会との関わりを調べておく。(100分) 復習：生涯学習における学校教育の重要性を説明できるようにまとめる。(100分)
第6回	生涯学習と教育（3）：生涯学習と社会教育の動向について 予習：社会教育施設の現在の動向について調べておく。(100分) 復習：社会教育と生涯学習についてまとめ説明できるようにする。(100分)
第7回	生涯学習と教育（4）：生涯学習と各種教育の連携について 予習：生涯に受けることの可能な学習機会について調べておく。(100分) 復習：生涯学習における様々な連携した学習機会を説明できるようにまとめる。(100分)
第8回	社会教育の概要（1）：日本の社会教育の歴史と社会教育の発展過程 予習：日本における社会教育について調べておく。(100分) 復習：日本の社会教育について説明できるようにまとめる。(100分)
第9回	社会教育の概要（2）：一般的・法制的概念から見た社会教育の対象・範囲 予習：社会教育法の条文を読み込んでおく。(100分) 復習：社会教育法のものと社会教育機関について説明できるようにまとめる。(100分)
第10回	生涯学習の活動と評価（1）：学びたいという意欲・意志に基づいた学習の内容、方法、形態について 予習：学校以外の学習機会を提供している機関について調べておく。(100分) 復習：生涯学習の多様性について説明できるようにまとめる。(100分)
第11回	生涯学習の活動と評価（2）：学びたいという意欲・意志に基づいた学習の評価について 予習：生涯学習の評価のあり方について調べておく。(100分) 復習：生涯学習の評価のあり方について説明できるようにまとめる。(100分)
第12回	生涯学習と関連施設（1）：公共図書館の役割と日本の特質 予習：公共図書館の活動について調べておく。(100分) 復習：生涯学習社会における公共図書館の活動について説明できるようにまとめる。(100分)
第13回	生涯学習と関連施設（2）：公民館・コミュニティーセンターの役割と歴史的意義 予習：公民館やコミュニティーセンターの事業について調べておく。(100分) 復習：生涯学習社会における公民館やコミュニティーセンターのあり方について説明できるようにまとめる。(100分)
第14回	生涯学習と関連施設（3）：博物館の現況と種類、博物館活動、教育普及活動などの総合的ネットワーク 予習：博物館の事業について調べておく。(100分) 復習：生涯学習社会における博物館の活動の意義について説明できるようにまとめる。(100分)

成績評価方法・基準	定期試験50%、社会教育施設見学レポート30%、提出物・小テスト20%
-----------	-------------------------------------

書名	著者	出版社	ISBN	備考
生涯学習論Ⅰ	高橋克			
参考書				
その他	前期の日曜日等を利用して社会教育施設見学をおこなう。見学施設までの交通費等は自弁です。			
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	県立高校に教諭として18年勤務。県立博物館に学芸員として3年勤務。県教育委員会生涯学習部文化財課に文化財主事として3年勤務。学校教育と社会教育、文化財保護行政の場で教育・研究を実施。
学生を主体とする教育方法の実践	プレゼンテーション／実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(2)／社会学部(3)／メディアコミュニケーション学部(3)／メディアコミュニケーション学部(4)／メディアコミュニケーション学部(7)／卒業要件外科目等

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	守屋 志保(D-0402)			履修開始年次	1年	単位※1	2単位			
年度	2020年度	科目名	健康・スポーツ科学/健康・スポーツ科学I							
学期※2	2020年度前期			学校区分	大学					
科目群	1群			区分(授業形態)	週間授業					
副題										
授業の概要	スポーツを文化としてとらえ、その魅力を探るとともに、現代社会の現状と課題をあげ、コミュニケーション、チームワークなどスポーツを切り口に問題解決する方法を検討する。また、スポーツを健康・体力作りの視点でとらえ、運動生理学やスポーツ医学、栄養学的な知見を手がかりに私たちの生活の中でスポーツや身体運動とどのように関わっていったらいいのかを考察する。									
到達目標	スポーツを健康・体力づくりの視点でとらえ、身体に対しての気づき、健康に対して適切な知識を身につける。また、グループで活動していく中で、コミュニケーション能力、協調性などのスキルを身につける。									

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容

第1回	文化としてのスポーツのとらえ方 スポーツの価値について考え、理解する。 予習：自分がしてきたスポーツからどのようなことが得られたかについて、論議できるように準備をする。 復習：他の学生が述べたスポーツの価値について自身の考え方と比較検討を行う。
第2回	現代社会とスポーツ 現代社会におけるスポーツの役割について理解する。 予習：現代社会におけるスポーツの役割について調べておく。 復習：現代社会におけるスポーツの役割について説明できる。
第3回	運動生理学とスポーツ 運動生理学の考え方 運動生理学についての理解 予習：運動生理学について調べておく。 復習：授業内での学習をノートに整理する。
第4回	運動生理学とスポーツ 運動生理学を活かした健康・体力づくり 体力についての理解 予習：体力の定義について調べておく。 復習：授業内での学習をノートに整理する。
第5回	球技の理論と実技 基本技術の習得 バスケットボール競技を通じて、基本技術の習得を行う。 予習：バスケットボール競技について調べる。 復習：バスケットボール競技の基本技術について説明できる。
第6回	球技の理論と実技 基本技術の習得と組み合わせ バスケットボール競技を通じて、基本技術の習得を行う。 予習：バスケットボール競技の基本技術の映像などを見る。 復習：バスケットボール競技の基本技術について説明できる。
第7回	球技の理論と実技 ゲーム運営の基本 コミュニケーションをとり、ゲーム運営を行う。 予習：ルールについて調べる。 復習：ゲームの内容について振り返る。
第8回	球技の理論と実技 ゲーム運営 コミュニケーションをとり、ゲーム運営を行う。 予習：ルールについて調べる。 復習：ゲームの内容について振り返る。
第9回	球技の理論と実技 ゲーム運営と評価 コミュニケーションをとり、ゲームの内容を改善するための方法を考え、チームで修正を行う。 予習：以前に行ったゲームについて振り返る。 復習：修正した内容が適切であったか考える。
第10回	球技の理論と実技 評価の活用とゲーム運営 コミュニケーションをとり、ゲームの内容を改善するための方法を考え、チームで修正を行う。 予習：以前に行ったゲームについて振り返る。 復習：修正した内容が適切であったか考える。
第11回	栄養とスポーツ 栄養の考え方 栄養とスポーツとの関係について理解する。 予習：栄養の基礎知識を調べる。 復習：スポーツとの関連性について説明できる。

第12回	栄養とスポーツ 栄養を活かした健康・体力づくり 栄養の重要性について理解する。 予習：栄養の基礎知識を調べる。健康・体力づくりには、栄養が重要なことを理解する。 復習：スポーツとの関連性について説明できる。
第13回	医学とスポーツ 人体の基礎 スポーツ医学の基礎を理解する。 予習：スポーツ医学の基礎知識を調べる。スポーツによって起こりうる怪我について調べる。 復習：授業内容をノートに整理する。
第14回	医学とスポーツ 医学知識を活かした健康・体力づくり スポーツ医学の基礎を理解する。 予習：スポーツ医学の基礎知識を調べる。 復習：授業内容をノートに整理する。

成績評価方法・基準	実技試験（30%） 実技への取り組みとチームワークを高めるためのコミュニケーション、リーダーシップ能力（70%）
-----------	--

参考書	
その他	
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	第一勧業銀行、富士通にて、女子バスケットボールの日本リーグで選手としてプレイした経験を全ての授業で活用する。
学生を主体とする教育方法の実践	グループワーク／実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	こどもコミュニケーション学科(1)／こどもコミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	守屋 志保(D-0402)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位				
年度	2020年度	科目名	体育								
学期※2	2020年度後期		学校区分	大学							
科目群	こ2群		区分（授業形態）	週間授業							
副題											
授業の概要	感性、身体、運動に関わる多様な体験をさせることにより、運動することの楽しさ、面白さ、運動が引き起こす心身の変化に気づかせ、それを指導するための技術を学ぶ。										
到達目標	児童期の身体的な発育発達および運動技能の獲得に関する基礎知識を習得する科目である。小学校における体育科の授業づくりに関する基本的な知識・内容および指導技術について、講義や演習を通して理解・習得することをねらいとしており、子どもの成長過程を見据え、健全な成長を導くために必要な技術を身につけることを目標とする。										

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容

第1回	ガイダンス
第2回	自身の身体への認識を深める① 人体の特性を体験的に知る 予習：自身の幼児期からの運動経験について振り返りノートにメモする。（100分） 復讐：授業を聞いて、再度、細かく自身の運動経験から得たことについて考える。（100分）
第3回	自身の身体への認識を深める② 心と体の関係を体験的に知る 予習：自身の体と心のコンディションについて表を作る。（100分） 復讐：授業を聞いて、体と心が関係していることを確かめ、自分の特徴について説明できるようにする。（100分）
第4回	身体の発育発達① 幼児及び児童を中心とした身体の発達の理解 予習：幼児及び児童の身体の発達について調べる。（100分） 復讐：幼児及び児童の身体の発達について説明できる。（100分）
第5回	身体の発育発達② 生活習慣及び心の発達（情動知能を含む）の影響 予習：心の発達について調べる。（100分） 復讐：授業の内容と自身の心の発達に関して比較し、説明できる。（100分）
第6回	運動技能の獲得過程について① 運動技能の獲得理解 予習：運動技能の獲得過程について調べる。（100分） 復讐：運動技能の獲得過程について説明できる。（100分）
第7回	運動技能の獲得過程について② 運動技能獲得と心（情動知能を含む）の関係 予習：運動技能の獲得過程と心の発達との関係を調べる。（100分） 復讐：授業の内容と自身の運動技能の獲得過程を振り返り説明できる。（100分）
第8回	球技系の発育発達に応じた指導法① 基本技能の練習と振り返り 予習：興味のある球技についての基本技能について調べる。（100分） 復讐：授業の復讐をする。（100分）
第9回	球技系の発育発達に応じた指導法② ボールを持たない動きとその理解 予習：球技についてボールを持たない動きとはどのようなものかを調べる。（100分） 復讐：映像などで確認して、説明できる（100分）
第10回	球技系の発育発達に応じた指導法③ ドリルゲームとタスクゲームの実践 予習：グループ戦術などについて調べる。（100分） 復讐：授業の内容を映像などで確認する。（100分）
第11回	球技系の発育発達に応じた指導法④ ゲームの進め方の理解 予習：チーム戦術などについて調べる。（100分） 復讐：授業の内容を映像などで確認する。（100分）
第12回	体育の指導案作成① 映像記録で学ぶ指導技術 予習：実際に個人技術の指導案を作成する。（100分） 復讐：振り返り、改善点を説明できる。（100分）
第13回	体育の指導案作成② 子どもへの言葉かけ（情動知能の発達）に留意した指導案の作成 予習：グループ指導の指導案を作成する。（100分） 復讐：映像で振り返り、改善点を説明できる。（100分）
第14回	模擬指導 子どもの身体発達に留意した指導の実践 予習：指導案の作成。（100分） 復讐：映像で振り返り、改善点を説明できる。（100分）

成績評価方法・基準	授業への取り組み・実習の状況を重視した平常点及びレポートから総合的に評価を行う。 ① 平常点：毎回授業時に小課題を課し、授業への取り組みと理解度を評価する。 ② レポート：発育発達の過程、指導する場合の留意点がしっかりと理解できているかについて評価する。
-----------	---

参考書	
その他	
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	第一勧業銀行、富士通にて、女子バスケットボールの日本リーグで選手としてプレイした経験を全ての授業に活用する。
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート／グループワーク／実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	こどもコミュニケーション学科(1)／こどもコミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。